北薬大情報

北海道薬科大学広報部

2012.6.12
Vol.114

桂

かつら [KATSURA]

発行：北海道薬科大学　〒047-0264 小樽市桂岡町7番1号
TEL(0134)62-5111　FAX(0134)62-5161
URL http://www.hokuyakudai.ac.jp

CONTENTS

●新学長に渡辺泰裕教授が就任
●キャンパス移転決定
●学位記授与式を挙行
●第97回 薬剤師国家試験結果
●学生部長表彰の授与式を開催
●平成24年度 新入生一泊オリエンテーションを実施
●新入生対象講演会及び歓迎会開催
●平成24年度 薬剤師生涯研修プログラム
●サテライトキャンパス・附属薬局開設記念特別講演会を開催
●学部奨学生、大学院研究奨励生が決定
●交通安全講習会（SDA総会）を開催
●株式会社マザアスと連携協定を締結
●第6回 薬物乱用防止キャンペーンに参加して
●「北海道薬学実務実習フォーラム2012」を開催
●桂岡の春、再び
●ご挨拶 ～赴任1年を振り返って～
●第4回海外語学研修 in ハワイ
●平成23年度の「Good Lecturer賞」が決定
●平成24年度 科学研究費補助金
●人事異動のお知らせ
●校務役職発令
●平成24年度 年間行事予定
●オープンキャンパスのご案内
●平成25年度 学生募集要項（概要）

1

2

3

4

5

1 入学宣誓式のようす　2 卒業祝賀パーティーのようす　3 学部奨学生証書を授与される学生
4 ハワイで行われた語学研修　5 薬物乱用防止キャンペーン本学コーナーでのようす

北海道薬科大学

新学長に渡辺泰裕教授が就任

平成24年3月31日の大和田榮治学長の退任に伴い、平成24年4月1日付で渡辺泰裕教授が本学第5代学長に就任しました。任期は大和田前学長の残任期間である2年間です。以下、学長からのメッセージに代えて、平成24年4月5日（木）に挙行した、平成24年度入学宣誓式での学長告辞の全文を掲載します。

本日、ここにおられる薬学部薬学科228名、大学院薬学研究科臨床薬学専攻博士課程2名の入学生の皆さん、おめでとうございます。

また、本日の式典に際しまして、ご多用にもかかわらず、本学の設置母体である北海道尚志学園の西理事長および役員の皆さま、尚志学園設置校の北海道工業大学・北海道自動車短期大学・北海道尚志学園高等学校・北海道自動車学校の学長、校長の皆さま、北海道薬剤師会の皆さま、北海道薬科大学同窓会・北海道薬科大学父母後援会の代表の皆さま、北海道薬科大学名誉教授の皆さま、そして多くのご父母の皆さまのご臨席をいただき、このように盛大な入学宣誓式を挙行できますことを大変うれしく思います。まことにありがとうございます。心より御礼申し上げます。

本年度の学部の志願者は781名でした。本学には様々な入試制度がありますが、いずれにおいても皆さんの努力の結果として、本日の入学宣誓式があります。未来の薬剤師を目指し、大きな夢を胸に抱いているものと思います。

北海道薬科大学薬学部薬学科は、「ファーマシューティカル・ケアの実践を通じて地域社会ならびに国民の健康と福祉の向上に寄与する薬剤師の養成を図る」を教育理念とする薬剤師養成のための教育課程です。学校教育法では、薬学教育のうち、「臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とする課程は6年制とする」と規定されています。また、平成18年度からの薬剤師養成課程が4年から6年に変更になった理由は、「医療技術の高度化、医薬分業の進展等に伴い、高い資質を持つ薬剤師養成が必要になったため」と説明されています。

北海道薬科大学は、6年制教育へ移行するはるか前の平成4年から、教育目標を薬剤師養成としてきました。

北海道薬科大学の教育は、旧4年制薬学教育に2年間の教育課程を付け加えて6年制にしたものではありません。6年間で真に社会に貢献できる薬剤師を育てるための教育体系になっています。医療職である薬剤師になるために必要な素養は、知識だけではなく、医療職としての態度も必要であり、挨拶の励行、タバコを吸わないなどは当然のこととして求められます。

本年3月に、6年制薬学教育を受けた最初の卒業生が薬剤師として社会に巣立ちました。6年制の卒業生は、今、それぞれの場でさらなる研鑽を積もうとしています。皆さんもそれに続くべくスタートを切りました。

私から、皆さんに求めるものが四つあります。

一つめは学習の継続です。当然ながら教育の場での主役は皆さん自身であり、皆さんの学習活動こそが大学の最重要事項になります。私たち教員は、皆さんの学習活動を支援する役割を担っています。私たちを上手に利用して、学習活動を継続してください。授業以外に1日2時間なり、3時間なりの学習計画を立ててください。大学での授業では学習内容を知ることはできますが、知識を定着させるためには授業外での学習活動が必要です。試験前の一夜漬けでは、決して成果は上がりません。そのことは肝に銘じておいてください。

二つめは生涯の友を作って欲しいことです。私にも現在もつきあいのある40年来の多くの友人がいます。友人達は、私が

新学長に就任した渡辺泰裕教授

発信するどんな相談事に対しても、かならず支援するよう努力してくれます。もちろん、私も同じです。そのような友人をたくさん作って欲しいと思います。

三つめは先ほど述べたこととも関連しますが、医療職を目指す人間としての最低限のマナーは守って欲しいことです。学習に向き合う誠意ある態度があれば、日常のマナー、授業中のマナーは間違いなく良好なものになるはずです。

最後は、些細なことなのかもしれませんが、私自身がとみに気になっていることです。最近、多くの学生が自分のことを「生徒」と言います。理由はわかりませんが、私は気になって仕方がありません。私の概念では、大学は高等教育機関であり、そこで学ぶ者は「学生」です。「生徒」は中学校、高等学校で学ぶ者を指すような気がします。単純に、古い人間だからそう思うのかもしれませんが、背景には「教えてもらう」「自ら学ぶ」の姿勢の違いがあるように思えて仕方がないのです。

大学での教育は、「教えてもらう」ではなく、「自ら学ぶ」です。この意識の違いは、皆さんの将来を決める決定的な差になると思います。是非とも、私は「学生です」と堂々と言って欲しいと思います。

3日前の4月2日に、札幌駅から歩いて約5分のところに北海道薬科大学附属薬局とサテライトキャンパスがオープンしました。附属薬局は一般に調剤薬局と呼ばれる保険薬局機能を果たしますが、

それに加え介護施設に対する在宅医療に取り組みます。国民医療費の高騰などにより、在宅医療の重要性が高まっています。在宅医療への薬剤師のかかわりは、国の政策です。大きな教育研究のテーマであるとともに、皆さんの将来の仕事にも密接に関連します。附属薬局を教育研究の場としても機能させていければと思います。

また、附属薬局に隣接するサテライトキャンパスは、薬剤師の生涯学習をはじめとした教育施設として機能します。

本年度から大学院博士課程臨床薬学専攻を設置し、最初の6年制教育の卒業生2名が入学しました。大学院では、臨床現場での研修・研究活動、大学での課題研究活動など研究活動が主となります。4年後には博士論文発表会、博士論文の提出があります。研究活動に喜びを見いだし、努力してください。

最後になりましたが、皆さんが、「薬剤師」を目指しスタートラインに立つにあたって、「宣誓書」にサインしていただきました。どうか、本日宣誓した内容を忘れることなく勉学に励み、その夢が実現できることを強く願い、告辞とします。

渡辺泰裕 学長　略歴　薬剤師、薬学博士

1975(昭和50)年　千葉大学薬学部 卒業
1977(昭和52)年　千葉大学大学院 薬学研究科 修士課程修了
同年　米国トーマスジェファーソン医科大学留学
1982(昭和57)年　千葉大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了
同年より　北海道薬科大学に勤務
2000(平成12)年　北海道薬科大学教授
2012(平成24)年　北海道薬科大学学長

研究テーマ：関節リウマチに関する研究

キャンパス移転決定

本学は平成27年4月に、経営母体の学校法人北海道尚志学園が設置する北海道工業大学のある札幌市手稲区の前田キャンパスに拠点を移すことを決定しました。現校舎は築後40年近くが経過して老朽化が進み、建て替えが急務になっています。そのため、現キャンパスの立地条件や通学の利便性、より良い教育環境を考慮した結果、前田キャンパスに移転する決断に至った次第です。移転後の桂岡キャンパスは、薬草園や図書館、臨床講義棟(C棟)を存続させ、研究・研修施設として有効活用していく予定です。詳細は後日あらためてご案内します。

学位記授与式を挙行

平成24年3月17日(土)に、平成23年度学位記授与式を札幌ガーデンパレスにおいて挙行しました。授与式では、大学院修了生1名と学部6年制教育1期生となる卒業生145名、一人ひとりが学位記を授与されました。引き続いて、学業・学術面において優れた評価を受けた大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程 前田詩織さん、薬学部薬学科 伊花和宏君、武田龍馬君、八巻美和さん、社会活動において優れた成果を収めた髙橋涼太君が学長表彰を受賞し、それぞれ表彰状と記念品が贈呈されました。最後に、修了生と卒業生全員で薬剤師としての誓いを宣誓しました。

授与式終了後には、同ホテルにおいて大学主催の卒業祝賀パーティーを開催しました。多くのご父母の方々にもご参加いただき、会場はおおいに賑わいました。

学位記授与式のようす

第97回 薬剤師国家試験結果

6年制課程の完成に伴い、試験科目、出題基準、試験出題形式及び解答形式、試験問題数、合格基準が大幅に見直された新制度による第97回薬剤師国家試験が平成24年3月3日(土)、4日(日)に実施され、同月30日(金)、厚生労働省より合格者が発表されました。本学からは165名が受験し、合格者は150名で、合格率は北海道内薬系大学・薬学部でトップの90.91％でした(全国88.31％)。このうち、6年制課程1期生の受験者は145名であり合格者は137名でした(合格率94.48％)。

学生部長表彰の授与式を開催

平成24年3月17日（土）、学位記授与式に先立ち札幌ガーデンパレスにおいて、学生部長表彰の授与式を行いました。受賞者は6年生の木村雄太君です。

木村君は、平成23年9月3日（土）、4日（日）に開催された日本社会薬学会第30年会において、卒業研究のテーマである「薬局薬剤師と患者を対象としたお薬手帳の認識と使用実態に関するアンケート調査」をポスター発表し、優れた研究発表に対して贈られるSP賞（Social Pharmacy賞）を受賞したことが、学業・学術面で優れた評価を受けたと認められました。

表彰された木村雄太君

木村君には、猪爪学生部長から表彰状および記念品が手渡されました。

平成24年度 新入生一泊オリエンテーションを実施

平成24年4月9日（月）、10日（火）の2日間、新入生一泊オリエンテーションを実施しました。今年で4年目となる本行事は、新入生がクラス担任や学生同士の親睦を深めるとともに、これから始まる大学生活への不安を和らげ、スムーズに大学生活に入ることができるようになることを目的としています。今年は会場をガトーキングダムサッポロに移し、大学からより近く、広いスペースで開催することができました。

今年は、2～5年の学部生および大学院生20名がファシリテーター（進行役）として、事前準備から当日の全体進行に至るまで中心となって活躍してくれました。また、教員も実施4年目ということで進行にも慣れ、スムーズで和やかな雰囲気のうちに終了することができました。特に夕食後のフリートークタイムでは、例年以上に新入生、教員、先輩ファシリテーターの参加率が高く、会場が狭く感じられるほどでした。

参加した新入生からは「最初は不安だったけど、クラスのメンバーと友達になれてよかった」「担任の先生がすごく話しやすい。これなら相談できそう」「いろいろなワークを通じてたくさんの人と話ができた。またやりたい」「大学生活に向けて少し不安が解消できた」といったコメントが得られました。また教員からも「自分のクラスの学生がどんな学生かよく分かった」「今年の新入生の雰囲気がつかめた」といった意見も聞かれ、参加者全員にとって意義のある行事となりました。

いくつかの改善課題はあるものの、本合宿も定例行事として定着してきました。今後さらに充実したイベントにしていきたいと思います。

クラス担任とのグループワーク

新入生対象講演会及び歓迎会開催

平成24年4月14日（土）、新入生を対象に二つの講演会を開催しました。一つめは、札幌百合の会病院の診療部Ⅱ部長（薬剤師）山崎史一先生による「喫煙と健康被害について～禁煙のすすめ～」、二つめは、北海道警察本部刑事部組織犯罪対策局薬物銃器対策課の望木勇一郎警部による「薬物乱用防止～白い粉の恐怖～」という講演でした。

山崎先生の講演は、喫煙と健康被害について数多くのデータ・写真・動画などを用いたもので、学生たちはスライドを見ながら真剣に聞いていました。望木警部は、いかに一般層に、特に大学生や高校生に薬物が浸透しているか、そして危険な存在であるかを強調しながら、薬剤師としての関わりを説明されました。いずれの講演も薬学生としての意識を高め、新入生の気持ちが引き締まるような内容でした。

多くの新入生が参加した歓迎会

また、同日午後からは桂青館で、新入生歓迎会が賑やかに行われました。各部やサークルで新入生を獲得しようとそれぞれ趣向を凝らした発表などを行い、盛況なうちに歓迎会は終了しました。

平成24年度 薬剤師生涯研修プログラム

北海道薬科大学は平成20年度より薬剤師生涯研修プロバイダーとしての認定を受けています。平成24年度の研修プログラムが下記のとおり決まりました。研修プログラムは、タイムリーなテーマを扱うアップトゥデート講座、病態・薬物治療を系統的に学ぶフォローアップ講座、スキルに応じて演習・実習形式で学ぶスキルアップ講座およびステップアップ講座からなり、薬剤師実務を支援する内容となっています。

ぜひとも受講し、自らの職能を高めてください。なお、詳細は本学ホームページ（http://www.hokuyakudai.ac.jp）の「薬剤師生涯研修認定制度」を参照してください。

●平成24年度　開催講座予定

講座名	回数	内　容	講　師	開催日	受講定数	会　場
薬剤師スキルアップ講座	1	栄養輸液管理（基礎編）	北海道薬科大学　教　授　郡　修徳	H24/5/13(日)	20	北海道薬科大学
	2	薬歴管理と症例検討（応用編）	北海道薬科大学　教　授　早川　達	H24/7/22(日)	20	サテライトキャンパス
	3	医薬品情報の収集と評価	北海道薬科大学　教　授　黒澤菜穂子	H24/8/19(日)	20	北海道薬科大学
	4	薬物治療モニタリング（中級編）	北海道薬科大学　教　授　猪爪　信夫	H24/9/23(日)	20	北海道薬科大学
	5	漢方処方解析	上原内科クリニック　院　長　上原　聡	H24/10/21(日)	20	サテライトキャンパス
	6	臨床コミュニケーション（応用編）	北海道薬科大学　准教授　野呂瀬崇彦	H24/12/2(日)	20	サテライトキャンパス
病態・薬物治療フォローアップ講座	1	循環器系疾患	市立札幌病院　理事（循環器内科）加藤　法喜 市立札幌病院　薬剤部　後藤　仁和	H24/10/13(土)	50	サテライトキャンパス
	2	腎・泌尿器系疾患	手稲渓仁会病院　腎臓内科部長　滝沢　英毅 手稲渓仁会病院　薬剤部長　本郷　文教	H24/11/3(土)	50	サテライトキャンパス
	3	脂質代謝異常症	旭川医科大学　内科学講座　講　師　（予定） 北海道薬科大学　薬物治療学分野 准教授　大滝　康一	H24/12/15(土)	50	サテライトキャンパス
	4	骨・関節系疾患	旭川医科大学　整形外科学講座　准教授　（予定） 旭川医科大学病院　薬剤部　山本　譲	H25/1/26(土)	50	サテライトキャンパス
	5	神経系疾患	旭川医科大学　内科学講座　講　師　片山　隆行 旭川医科大学病院　薬剤部　飯田　慎也	H25/2/16(土)	50	サテライトキャンパス
	6	婦人科系疾患	手稲渓仁会病院　産婦人科部長　藤野　敬史 手稲渓仁会病院　薬剤部主任　佐々木理絵	H25/3/9(土)	50	サテライトキャンパス
薬剤師ステップアップ講座	1	輸液療法に強くなろう! ー電解質輸液ー	琴似腎臓内科・泌尿器科　院　長　山地　泉 手稲渓仁会病院　薬剤部長　本郷　文教 北海道薬科大学　教　授　郡　修徳	H24/6/2(土)	20	サテライトキャンパス
	2	輸液療法に強くなろう! ー栄養輸液ー	札幌医科大学　第一外科　講　師　信岡　隆幸 札幌医科大学　薬剤部　高橋　和也 北海道薬科大学　教　授　郡　修徳	H24/6/9(土)	20	サテライトキャンパス
	3	薬剤師のためのフィジカルアセスメント 「褥創外用治療の知識と技術」	国立長寿医療研究センター臨床研究推進部　古田　勝経 北海道薬科大学　教　授　早勢　伸正 北海道薬科大学　准教授　坂東　勉 北海道薬科大学　講　師　伊東　佳美	H24/7/7(土)	20	北海道薬科大学
	4	指導薬剤師のためのプリセプターシップ	北海道薬科大学　准教授　野呂瀬崇彦 北海道薬科大学　准教授　山下　美妃	H24/9/9(日)	20	サテライトキャンパス
	5	薬剤師のためのフィジカルアセスメント 「バイタルサインの測定と症例検討」	小樽掖済会病院　院　長　佐々木一晃 北海道薬科大学　教　授　早勢　伸正 北海道薬科大学　教　授　加納誠一朗 北海道薬科大学　助　教　藤本　哲也	H24/11/18(日)	20	北海道薬科大学
薬剤師アップトゥデート講座 （薬剤師教育研修会）	1 (101)	チーム医療における 日本版CDTMの実践について	愛知県薬剤師会 副会長 日本薬剤師会　調剤技術委員会 副委員長　岩月　進	H24/5/18(金)	ー	サテライトキャンパス
	2 (102)	DIオンライン「クスリの鉄則」 ～臨床への応用～	日本メディカルシステム㈱調剤事業部 統括マネージャー（DI・安全管理担当）　笹嶋　勝	H24/6/23(土)	ー	サテライトキャンパス
	3 (103)	チーム医療の推進（医政局長通知）と 薬局・薬剤師の責務（仮題）	北里大学　薬学部　薬学教育研究センター 社会薬学部門　教授　鈴木　順子	H24/8/25(土)	ー	とかちプラザ
	4 (104)	簡易懸濁法の最前線と今後	昭和大学　薬学部　薬剤学教室 准教授　倉田 なおみ	H24/11/9(金)	ー	サテライトキャンパス

サテライトキャンパス・附属薬局開設記念特別講演会を開催

平成24年5月12日（土）、本学サテライトキャンパスを会場とした初の講演会、「サテライトキャンパス・附属薬局開設記念特別講演会」を開催しました。講演会には、卒業生、在学生、教職員など約120名が参加しました。渡辺泰裕学長、西安信北海道尚志学園理事長の挨拶に引き続き、徳島文理大学薬学部教授でNPO法人「山の薬剤師たち」理事長の瀬川正昭先生に、「地域における薬局・薬剤師の役割～NPO法人　山の薬剤師たちの活動を通して～」と題して、徳島県美馬市木屋平地区における過疎化の現状と、地域活動への参加や住民自治への支援活動を通して地域医療に取り組む薬剤師の姿について講演いただきました。

講演する瀬川正昭氏

学部奨学生、大学院研究奨励生が決定

平成24年度の学部奨学生および大学院研究奨励生が決定し、平成24年5月9日（水）に証書授与式を行いました。学部においては、今年度より北海道尚志学園奨学基金による奨学生が加わり、前年度に優秀な成績を収めた2～6年生各3名に対し北海道尚志学園奨学生としてそれぞれ24万円、各10名に対し本学奨学生としてそれぞれ12万円が給付されました。なお、学部1年生の奨学生は前期の成績に基づき10月頃に決定します。

大学院生は、本学研究奨励金として博士後期課程4名、博士課程2名にそれぞれ45万円が給付されました。

学部奨学生、大学院研究奨励生は以下のとおりです。

北海道尚志学園 学部奨学生

2年：鈴木　生、丸山ことね、三浦綾華
3年：及川赳矢、山田晃己、山本翔太
4年：青山　剛、清水麻衣、森野太一
5年：角谷直志、平野あゆみ、松崎円香
6年：岡見英里香、久保葉月、平元南実

北海道薬科大学大学院 研究奨励生

臨床薬学専攻博士1年：千田明日菜、山　佳織
生物薬学専攻博士2年：五十嵐将樹、佐藤恵亮
生物薬学専攻博士3年：岩山訓典、柴田倫人

北海道薬科大学 学部奨学生

2年：池田大騎、石澤清心、大石梨乃、鎌田彩織、佐藤　楓、高橋雅也、中川景介、中田一生、支部愛美、馬場麻梨奈
3年：稲村明洋、金澤沙衣、児玉佳奈美、坂井亜利紗、佐賀美裕明、佐藤哲平、中野浩一、西川真由、檜山亜由美、藤澤春香
4年：茨木泰裕、奥野麻衣、桂　志保里、小山絹子、坂川　彩、佐藤　栞、百武郁美、眞坂拓実、八巻貴太、湯浅麻記
5年：浅水駿充、新井諒也、鵜野竜馬、加藤由佳、菅野貴寛、菅原久美子、瀬戸　亘、西科小春、蓑島百花、渡辺　龍
6年：青木理沙、浅野裕章、今川尚美、吉良恵美、長谷川俊、林　祐希、堀川佑衣、前田睦実、的場友香、三藤陽香

交通安全講習会（SDA総会）を開催

平成24年4月26日（木）に、平成24年度SDA（安全運転者の会）総会および交通安全講習会が開催され、約220名の学生が参加しました。総会は現SDA会長・大橋彩加さん（4年）の司会で進められ、新会長として井門紗優果さん（3年）を選出しました。平成23年度決算と平成24年度予算を承認した後、「セーフティーラリー北海道2012」の紹介と参加申込案内を行いました。引き続き、小樽警察署 久保栄二 交通課企画係長による交通安全講習会が開催され、交通事故の恐ろしさや交通事故に至る状況を再認識することが促されました。

株式会社マザアスと連携協定を締結

北海道薬科大学は株式会社マザアスと教育・研究・研修に関する連携協定を締結しました。株式会社マザアスは、本学附属薬局が入居している「マザアス札幌」の運営会社です。調印式は平成24年4月26日（木）に本学サテライトキャンパスで行われ、株式会社マザアスの吉田肇代表取締役と本学の渡辺泰裕学長が協定書にサインしました。

この協定は、「高齢者住宅における在宅医療を中心とした薬剤師業務に関する教育・研究・研修で相互に協力し、地域医療と人材の育成に寄与する」ことを目的としています。すでに、附属薬局により「マザアス札幌」入居者に対する訪問薬剤管理指導を行っており、今後、本学学生の体験学習として「マザアス札幌」を活用することを予定しています。

連携協定書を交わす吉田肇氏（右）と渡辺学長（左）

第6回 薬物乱用防止キャンペーンに参加して

2年 髙橋 雅也

私は、平成24年3月11日（日）に札幌市のサッポロファクトリーアトリウムにて開催された第6回薬物乱用防止キャンペーン「ひとつの命を大切にVol.6」に、学部生13名、大学院生1名と参加しました。このキャンペーンは、社団法人札幌薬剤師会とAIR-G' FM北海道をはじめとする多くの共催・後援・協賛・協力や特別協賛（北海道日本ハムファイターズ、北海道フットボールクラブ）のもとに実施される「薬物乱用防止～NO DRUG , KNOW DRUG～」を呼びかけるイベントです。

私たちは、違法薬物や薬物乱用について調べた情報を発信することにより、より多くの人たちに薬物乱用の危険性やクスリに対する正しい知識と使い方を理解してもらい、「違法薬物はダメ！ゼッタイ！」という強い意識をもってもらうことを目的として、このキャンペーンに参加させていただきました。今回のキャンペーンは、例年好評の薬物乱用に関するクイズや北海道札幌方面中央警察署による薬物乱用をテーマとした寸劇、クラシックライブ、北海道警察本部による高校生との薬物乱用に関するディスカッションなどのほか、昨年起こった東日本大震災からちょうど1年後の開催ということで、追悼クラシックライブや仙台市薬剤師会による被災地での活動報告や被災地の現状についての説明などの特別企画、そして震災が発生した午後2時46分には黙祷が行われました。本学のブースでは薬剤師の仕事を体験してもらうため、お菓子を使った「こども調剤体験」を行いました。本学ブースで掲示したポスターでは、薬物乱用防止に関し、主に違法薬物の種類や危険性を訴えたり、スポーツファーマシスト、そして震災や放射線に関係するテーマを取り上げました。また、ステージでは薬物乱用防止への取り組みの報告と「こども調剤体験」として注射剤の調剤体験なども行ったほか、違法薬物に関するクイズの問題パネルの作成や解説などのお手伝いをさせていただきました。

札幌薬剤師会やAIR-G' FM北海道の方々との打ち合わせなど、1カ月以上前から準備を始めました。今年も昨年同様AIR-G' FM北海道協力のもと、薬物乱用防止を訴えるラジオCMに学生2名が参加させていただきました。当日は、日本薬剤師会会長、北海道薬剤師会会長も参加されたほか、道外からたくさんの地区の薬剤師会の方々が見学・支援に来られ、この薬物乱用防止キャンペーンを盛り上げていただき、大盛況のまま終えることができました。

私は、今後も桂青会薬物乱用防止局の一員としてキャンペーン活動に積極的に参加し、防止局の活動を継続・活発化し、たくさんの人たちにクスリに対する正しい知識や使い方を知ってもらうことができるように努めていきたいと思っています。今後も薬物乱用防止局をよろしくお願いします。

クイズ大会のようす

「北海道薬学実務実習フォーラム2012」を開催

平成24年4月22日（日）、北海道地区調整機構、北海道薬剤師会、北海道病院薬剤師会、道内薬系3大学の共催で、「北海道薬学実務実習フォーラム2012」を開催しました。

本フォーラムは、6年制薬学部の長期実務実習の改善・整備を目的に、調整機構、受入施設、大学がそれぞれの取り組み内容を報告するものです。今回は、トラブル対応・防止のための手引き書の作成、Webシステムの統合、実務実習Q&A改訂などが報告されました。総合討論では、実際に学生を受け入れている施設からの質問に対し活発な意見交換が行われました。また、平成26年度の実施を目指して進行中の、実務実習モデル・コアカリキュラム改訂に関する解説がありました。

桂岡の春、再び

地域医療薬学分野　講師　柳本 ひとみ

地域医療薬学分野に実務家教員として採用して頂き、まもなく1年が経とうとしています。8年前に大学のカリキュラムが6年制に合わせた内容に変更される年に一旦、大学を卒業？（退職）させて頂き、調剤薬局で薬剤師として経験を積んで参りました。その間、本学、黒澤菜穂子教授のご指導のもと、ニュージーランドのAuckland大学臨床薬学部において研修の好機を与えて頂きました。現場では特に、在宅業務を経験して参りました。その経験を大学附属薬局での在宅部門で生かす幸運を昨年頂戴し、7年ぶりに懐かしい母校に復職させていただきました。在宅医療は、薬剤師がまさにカウンターを飛び越えて、患者とその背景に向き合う業務です。薬物療法のモニタリングと評価のスキルを駆使して、患者の全人的なQOLを向上させることが業務となります。

しかし、薬と病気のことだけに知識があるだけでは全人的なQOLを改善するには至りません。患者の人生を尊重する心がなくては、薬剤師の行う在宅業務はまさに「仏を作って魂を入れず」になってしまいます。そういった人文的なセンスをどのように教育の場では育んでいけば良いのかが、最近の私のテーマでもあります。

研究としては、他職種連携の具体的な可能性とその手段を探ることを目的に、日々学生さんと共に研鑽を重ねています。マンパワーを生かしてこそ、患者のQOL向上を望むことが可能となります。他職種に対してどのようにすれば、顔の見える頼りにされる在宅訪問薬剤師となりうるのかがテーマです。

国際薬剤師・薬学連合（FIP）提唱の理想の薬剤師像である「七つ星」プラス一つ星の薬剤師を目指し、「自分が現在、星いくつの薬剤師で、もう一つ星を増やすために何をすれば良いか」を理解し行動できる薬剤師を育てていきたい、と再び北海道薬科大学で迎える春に強く願っています。

ご挨拶 ～赴任1年を振り返って～

薬理学分野　講師　高栗　郷

昨年6月1日付で北海道薬科大学薬理学分野の講師として赴任しました高栗郷と申します。私は、平成16年3月に北海道薬科大学薬学部を卒業後、修士課程、博士後期課程へと進学しました。大学院では、指導教官であられた薬理学分野の市原和夫教授（前北海道薬科大学副学長）に研究を一から教えていただきました。博士号取得後すぐに渡米し、約2年半ペンシルベニア州フィラデルフィアにあるテンプル大学医学部生理学分野で博士研究員として主に、血管平滑筋細胞の遊走・肥大に対するシグナリングの解析を行ってきました。その研究成果をHypertensionやJournal of Molecular and Cellular Cardiologyなどの循環器系の雑誌に掲載することができました。

現在、本学での講義は薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱや薬学実習などを担当しております。薬理学は、ヒトでの薬物の作用機序（作用効果）を学ぶ学問で薬学生にとって最初はおもしろくも難しいといった印象を持つかもしれません。これらの知識は薬剤師、MRや研究者となってからも使い続けるのでしっかりと理解してもらえるように授業を行いたいと思います。現在の研究に関しては、動脈硬化の発症・進展に関わるシグナル伝達に対する薬物の新たな作用機序の解明、インスリン抵抗性の新たな発症機序の解明を目標に励んでおります。

最後に、この1年間を振り返りますとあっという間に時間が過ぎていきました。この1年間で、自分の目標をすべて達成することはできませんでしたが、これから大学教員として教育・研究に邁進し、北海道薬科大学のさらなる発展に貢献できるよう頑張る所存でありますので、これからも皆さま方の変わらぬご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

第4回海外語学研修 in ハワイ

研修中のひとコマ

平成24年3月4日（日）より18日（日）までの2週間に渡り、ハワイ州立大学マノア校において希望者13名による短期海外語学研修を行いました。

英語教育プログラムの一環として導入した本研修の特徴は、語学に興味がある学生が、英語レッスン、現地学生との交流、病院や薬局見学、寮生活での様々なふれあいなどを経験することにより「楽しみながら英語にふれられる」ことです。第4回目の本年度も英語を学び、さらにハワイ文化の理解を深めることができた充実した研修となりました。下記に参加学生の紀行文を紹介します。

2度目のハワイ語学研修

4年 有髙 謙太

1年ぶりのハワイ。去年に続き2年連続で語学研修のプログラムに参加させていただきました。空港に着くと懐かしさや嬉しさが込み上げてくると同時に、ハワイが迎えてくれたのは“welcome shower（歓迎の雨）”。ハワイでは雨は祝福と言われており、到着したときに降っていたら幸運のサインとされています。しかし、私たちの2週間の滞在中1週間が雨。天候に恵まれなかったと言えなくもない状況でしたが、“Hawaii is paradise!”という言葉を改めて感じ、日本とは言語、気候、文化の異なる環境で、学生のうちにしかできない貴重な体験をしてきました。

学校では去年に引き続きMr. Robert（ニックネーム:ロブ）により授業が行われ、生徒一人一人に発言する機会がたくさん与えられました。2週間で完全に聞き取る力がつくはずもありませんが、少しは単語で話せるようになり英語にさらに興味が持てました。“Don't be shy!”という言葉をかけられ、日々の出来事を一人ずつ発表するのが授業の始まりに必ずあります。いつ（When）、誰と（Who）、どこに（Where）、どのように（How）、何を（What）、なぜ（Why）というキーワードに基づいて発表するのですが、いざ英語でとなると自分の言いたいことがうまく英語にできないのもあって辞書は手放せませんでした。二度目の授業でしたが、やはり普段使っていない英語に慣れるためには継続することが大事だなと感じました。

Educational Activityとして病院の薬局やドラッグストアの見学や大学でのスポーツ観戦もありました。薬局見学では日本との医療の違いを知り、より視野が広がったと思います。日本の国民皆保険制度と違いアメリカは個人で医療保険に加入しなければなりません。患者が支払えなかった高額の医療費を病院側が負担し、それに耐えきれなくなった病院がなくなるといったこともよくあるそうです。悪い面ばかりではなく、医療において各職種での仕事は細分化され、よりスムーズに患者への医療の提供が行われていました。こういった医療制度なので、ハワイでは健康管理は患者自身がするというのが基本とされています。自分自身に置き換えて考えてみると、まだ他人まかせという感覚が強く、病気になれば病院へ行き、診てもらい、薬を飲めば……と言うのが現状のような気がします。これから薬剤師として働いていく前にとても大事なことを考えさせられました。

どんな場面でも会話をすることがコミュニケーションに繋がり、これから私たちが目指す薬剤師にも当然必要な能力となります。人が人に対する「思い」や「気持ち」を感じて受けとめたり、支えあい助け合って日々成長できたら、それが大きな力になっていくのだと感じました。ハワイという日本とは異なる地域の文化や環境を経験することで自分にとってプラスになったことはたくさんありました。ハワイはもちろん素晴らしい場所でしたが、実際に空気にふれたことで私達の国の大切さや誇らしさも改めて感じさせられました。本当に貴重な時間を学生として今経験できたことは一生の思い出になりましたし、これからの自分の財産にして薬剤師になったときに役立てていきたいと思います。

最後に、このような素晴らしい経験をする機会を与えてくださった先生方や両親に感謝します。ありがとうございました。

平成23年度の「Good Lecturer賞」が決定

平成23年度の「Good Lecturer賞」の受賞者が決まりました。「Good Lecturer賞」とは、前・後期の最終授業アンケート時に、「良い授業を提供している」と思う教員を学生の皆さんが投票し、その結果から各学年前・後期それぞれ1名の受賞者を決定するものです。今回の受賞者と担当科目は右記のとおりです。新任教員に受賞者の授業を参観してもらうなどして、授業改善につなげていきます。

学年	前期		後期	
	教員名	担当科目	教員名	担当科目
1年	渡部智希　講師	物理学I	水上徳美　准教授	有機化学I
2年	今井幹典　准教授	有機化学II	山下　浩　准教授	生薬学II
3年	丹保好子　教授	公衆・環境衛生学	山下美妃　准教授	輸液・栄養管理学
4年	坂東　勉　准教授	臨床薬理学	早勢伸正　教授	薬物治療学III
5年	今田愛也　准教授	緩和薬物療法学		

平成24年度 科学研究費補助金

文部科学省および日本学術振興会から、平成24年度の科学研究費補助金の交付内定が通知されました。新規内定者および研究課題名は右記のとおりです。

若手研究(B) 髙橋夏子
「がん化学療法施行時における
食品成分併用リスクの免疫学的評価」

人事異動のお知らせ

◇教員

●**採用**(平成24年4月1日付)
講師　金田京介
(基礎薬学系医薬化学分野)
講師　佐藤隆司
(基礎薬学系薬剤学分野)
講師　鈴木裕治
(基礎薬学系医薬化学分野)
講師　髙橋夏子
(基礎教育系自然科学分野)

●**昇格**(平成24年4月1日付)
教授　加納誠一朗
(基礎薬学系薬理学分野)
教授　櫻井秀彦
(社会薬学系薬事管理学分野)
教授　丁野純男
(基礎薬学系薬剤学分野)
教授　戸田貴大
(臨床薬学系臨床薬理学分野)
教授　和田浩二
(基礎薬学系医薬化学分野)
准教授　伊藤三佳
(薬学教育系薬学教育分野)
准教授　大野裕昭
(薬学教育系薬学教育分野)

●**分野変更**(平成24年4月1日付)
教授　神　久聡、教授　山田　恵、
准教授　板倉宏予、准教授　加藤隆治、
講師　田中三栄子
(基礎教育系人文社会・体育学分野へ)
教授　高木英利、教授　高橋和彦、
教授　三浦俊明、教授　森田一彦、
教授　吉岡忠夫、講師　渡部智希
(基礎教育系自然科学分野へ)
教授　野村憲和、准教授　町田麻依子、
助教　藤本哲也
(臨床薬学系薬物治療学分野へ)
教授　猪爪信夫、教授　戸田貴大、
准教授　今田愛也
(臨床薬学系臨床薬理学分野へ)
教授　島森美光
(薬学教育系薬学教育分野へ)
准教授　坂東　勉
(社会薬学系地域医療薬学分野へ)
准教授　村岡早苗
(基礎薬学系生命科学分野へ)
准教授　村上美穂
(社会薬学系薬事管理学分野へ)

●**退職**(平成24年3月31日付)
学長　大和田榮治
教授　市原和夫
(副学長、基礎薬学系薬理学分野)
教授　佐藤重一
(基礎薬学系薬剤学分野)
教授　森本一洋
(基礎薬学系薬剤学分野、平成帝京大学へ)
准教授　今井幹典
(基礎薬学系医薬化学分野、金城学院大学へ)

◇職員

●**採用**(平成24年4月1日付)
学生課主事　尾﨑友実
総務課主事　渋谷朋広
管理課主事　鈴木祥子
教務課主事　南波秀幸
教務課契約職員　平山知枝

●**転入**(平成24年4月1日付)
就職係長　川本　隆
(工大、就職相談係長から)
図書係長　石津　浩
(工大、入試係長から)
学生課主事　小林裕樹
(短大、学生支援課主事から)

●**昇格**(平成24年4月1日付)
管理運営グループ長、
総務課長事務取扱　高島宏恭
(薬大、総務課長)
学生課長　高橋伸仁
(薬大、学生係長)
入試広報課長　阿部ひとみ
(薬大、図書係長)
学生係長　長縄進一
(薬大、主事)

●**配置換え**(平成24年4月1日付)
教務課学術情報係長　渡部俊也
(管理課情報技術係長から)

●**退職**(平成24年3月31日付)
学生課主事　上山俊夫

●**転出**(平成24年3月31日付)
入試広報課長　加藤智彦
(法人、経営企画課長へ)
学生課長　片岡　隆
(自校、事務長へ)

校務役職発令

平成24年度法人発令の校務役職をお知らせします。

学長:渡辺泰裕
副学長:渡辺一弘(薬学科長兼任)
猪爪信夫
薬学科 基礎薬学系主任:伊藤慎二
薬学科 臨床薬学系主任:早川　達
薬学科 社会薬学系主任:黒澤菜穂子
薬学科 薬学教育系主任:島森美光
薬学科 基礎教育系主任:髙木英利
●**大学院運営部　部長**:猪爪信夫
●**教務部　部長**:渡辺一弘
●**学生部　部長**:黒澤菜穂子
●**就職部　部長**:桜井光一
●**入試部　部長**:佐藤久美
●**広報部　部長**:戸田貴大
●**図書館・医薬情報センター**
館長:郡　修徳
●**薬用植物園　園長**:早勢伸正
●**実験動物センター**
センター長:佐藤久美
●**ＲＩセンター**
センター長:伊藤慎二
●**中央機器センター**
センター長:江川祥子
●**情報システムセンター**
センター長:島森美光
●**薬学教育センター**
センター長:島森美光
●**生涯学習センター**
センター長:早川　達

平成24年度 年間行事予定

4月	5日(木)	入学宣誓式
	6日(金)	基礎学力試験(学部1年)
		第1回実力テスト(学部4年:6日・9日)
		ガイダンス(6日・9日・11日・12日)
	9日(月)	学生定期健康診断(～10日)
		新入生一泊オリエンテーション(学部1年:～10日)
		テキスト販売(9日・11日・12日)
	13日(金)	前期始講
	14日(土)	新入生講演会、桂青会新入生歓迎会
	20日(金)	マナーセミナー(学部1年:4～6講目)
	26日(木)	仮進級試験(学部6年:～27日)
		SDA(安全運転者の会)総会、交通安全講習会
5月	11日(金)	第1回就職相談会
	14日(月)	実務実習①(学部6年:～7月27日)
	15日(火)	開学記念日
	24日(木)	前期定期試験(学部5年:～25日)
6月	4日(月)	前期定期試験結果発表(学部5年)
	8日(金)	全学町内清掃活動(4～6講目)
	9日(土)	第2回実力テスト(学部4年)
	18日(月)	アーリーエクスポージャー(学部1年:～22日)
	28日(木)	就職、事前学習Ⅲ、実務実習、卒業研究ガイダンス、就職講演会(学部5年)
	29日(金)	体育大会・大学祭(～7月1日)
7月	2日(月)	大学祭振替休日
	17日(火)	前期終講(学部5年)
	23日(月)	仮進級試験(学部5年:～24日)
	27日(金)	前期終講(学部2～4年)
		実務実習①終了(学部6年)
	30日(月)	国試・演習Ⅸ・総合演習、就職ガイダンス(学部6年)
8月	1日(水)	前期追・再試験(学部5年:～2日)
	2日(木)	前期定期試験(学部2～4年:～8日)
	3日(金)	前期終講(学部1年)
	4日(土)	第1回オープンキャンパス
	5日(日)	第2回オープンキャンパス
	8日(水)	前期定期試験(学部1年:～10日)
	9日(木)	前期成績発表(学部5年)
	16日(木)	白衣授与式(学部5年)
	17日(金)	実務実習事前学習Ⅲ(学部5年:～30日)
		総合演習第1回試験(学部6年:17・20日)
	23日(木)	前期定期試験結果発表(学部1年～4年)
		仮進級試験(学部2～4年:～24日)
	28日(火)	後期始講(学部6年)
	29日(水)	前期追・再試験(学部1～4年:～31日)
9月	3日(月)	薬学共用試験CBT体験受験(学部4年:～4日)
		実務実習・卒業研究開始(学部5年)
		実務実習②(学部5年:～11月16日)
	5日(水)	後期始講(学部4年)
	12日(水)	後期始講(学部1～3年)、前期成績発表(学部1年～4年)
	13日(木)	卒業研究発表会(学部6年:～14日)

10月	5日(金)	メイクアップセミナー(4～5講目)
	7日(日)	第3回オープンキャンパス
	13日(土)	父母懇談会(地方:～14日)
	15日(月)	体験学習(学部2～3年:～26日)
	20日(土)	父母懇談会(本学)
	29日(月)	総合演習第2回試験(学部6年:～30日)
11月	1日(木)	後期終講(学部4年)
	3日(土)	修士課程(1次)・博士課程(1次)入学試験
	5日(月)	後期定期試験(学部4年:～7日)
	7日(水)	薬学共用試験ガイダンス(学部4年)
	8日(木)	第3回実力テスト(学部4年)
	10日(土)	公募制推薦・社会人入学試験(学部)
	11日(日)	指定校・系列校推薦・AO入学試験(学部)
	16日(金)	後期定期試験結果発表(学部4年)
		実務実習②期終了(学部5年)
	19日(月)	事前学習Ⅱ(学部4年:～12月3日)
	22日(木)	就職ガイダンス(学部5年)
	27日(火)	冬道交通安全講習会
	30日(金)	第2回就職相談会
12月	上旬	実験動物慰霊祭
	6日(木)	総合演習第3回試験(学部6年:～7日)
	11日(火)	冬季休業開始(学部1年)
	中旬	就職ガイダンス、就職部OB・OGによる就職講演会(学部5年)
	13日(木)	薬学共用試験CBT(学部4年:～14日)
	17日(月)	事前学習Ⅰ(学部4年:～1月16日)
	20日(木)	科目別実力テスト(学部2～3年:～21日)
	22日(土)	冬季休業開始(学部2～6年)
1月	7日(月)	冬季休業明け始講(学部1～4・6年)
		実務実習③(学部5年:～3月22日)
	19日(土)	薬学共用試験OSCE(学部4年:～20日)
	22日(火)	後期終講(学部1～3年)
	24日(木)	総合演習第4回試験(学部6年:～25日)
	25日(金)	修士学位論文発表会
2月	1日(金)	一般入学試験前期A日程(学部)
	2日(土)	一般入学試験前期B日程(学部)
	4日(月)	後期定期試験(学部1～3年:～8日)
	12日(火)	雪かきボランティア活動(全学年)
	14日(木)	総合演習再試験(学部6年:～15日)
	16日(土)	一般入学試験後期日程(学部)
	18日(月)	修士課程(2次)・博士課程(2次)入学試験
	19日(火)	後期定期試験結果発表(学部1年～3年)
	20日(水)	薬学共用試験CBT追・再試験(学部4年)
	23日(土)	薬学共用試験OSCE追・再試験(学部4年)
	26日(火)	後期追・再試験(学部1～3年:～3月1日)
	27日(水)	後期追・再試験(学部4年:～3月1日)
		卒業発表
3月	2日(土)	薬剤師国家試験(学部6年:～3日)(予定)
	3日(日)	海外語学研修(学部1～4年:～17日)
	14日(木)	進級発表
	16日(土)	学位記授与式
	22日(金)	実務実習③終了(学部5年)
	下旬	就職ガイダンス(学部6年)

かつら [KATSURA]
北薬大情報 桂
北海道薬科大学広報部
PUBLIC RELATIONS MAGAZINE
2012.6.12 Vol.114

医療の現場で働く薬剤師の仕事や役割を、模擬講義や多彩な体験実習を通して知ろう！

オープンキャンパスのご案内

8月4日（土）	8月5日（日）	10月7日（日）
10:00~15:00	10:00~15:00	10:00~15:00

オープンキャンパスメニュー（予定）

◎オリエンテーション　◎模擬講義
◎体験実習　◎ウエルカムランチ（無料）
◎施設見学　◎入試相談

オープンキャンパス参加のお申し込み・お問い合わせ先

交通アクセス／JR「銭函駅」から本学までの無料送迎バスを運行します。

☎0134-62-1945（入試広報課）

平成25年度

学生募集要項（概要）

◎募集学部・学科／薬学部・薬学科（修業年限6年）
◎入学定員／210人

● 一般入試

	前期 ※1		後期
	A日程	B日程	
募集人員	47人		3人
出願期間	平成25年1月7日(月)～1月24日(木)必着		平成25年2月4日(月)～2月12日(火)必着
試験日	平成25年2月1日(金)	平成25年2月2日(土)	平成25年2月16日(土)
試験地	本学、函館、釧路、秋田、仙台、東京		本　学
試験科目	数学、外国語、理科		

● 推薦入試

	公募制推薦	指定校推薦	系列校推薦
募集人員	25人	50人	30人
出願期間	平成24年11月1日(木)～11月7日(水) 必着		
試験日	平成24年11月10日(土)	平成24年11月11日(日)	
試験地	本　学		
試験科目	書類審査、小論文、面接	書類審査、面接	

● AO入試

	同窓生子女	後継者育成	障がい者
募集人員	20人	15人	2人
エントリー受付期間	平成24年7月20日(金)～9月7日(金)必着 ※2		
出願許可発表日	平成24年10月12日(金)		
出願期間	平成24年11月1日(木)～11月7日(水)必着		
最終試験日	平成24年11月11日(日)		
試験地	本　学		
試験科目	書類審査、面接		

● 大学入試センター試験利用入試

	前期	後期
募集人員	12人	3人
出願期間	平成25年1月7日(月)～1月29日(火)必着	平成25年2月4日(月)～2月20日(水)必着
試験日・試験地	本学独自の試験は実施しません。	
指定科目	数学、外国語、理科	

● 社会人入試

募集人員	3人
出願期間	平成24年11月1日(木)～11月7日(水)必着
試験日	平成24年11月10日(土)
試験地	本学
試験科目	数学、外国語、理科、面接

※1　一般入試前期のA日程・B日程の両日受験も可能です。試験科目の詳細な範囲は学生募集要項を参照してください。
※2　仙台、東京、大阪で実施するAO面談（9月2日（日））を希望する者のエントリー締切は8月10日（金）必着とします。なお、障がい者AOのAO面談は本学で行います。

本学に関するよりくわしい情報は、ホームページでご覧ください。 http://www.hokuyakudai.ac.jp/

北薬大情報
北海道薬科大学広報部

2012.10.5
Vol.115

桂

かつら [KATSURA]

発行：北海道薬科大学　〒047-0264 小樽市桂岡町7番1号
TEL(0134)62-5111　FAX(0134)62-5161
URL http://www.hokuyakudai.ac.jp

CONTENTS

●フィラデルフィア テンプル大学での研究留学
●白衣授与式を挙行
●桂青会役員委嘱状交付式を挙行
●自由科目セミナー「看護栄養学部生と学ぶ！ 実践 地域医療」を夕張市で実施
●第37回北薬祭・体育大会を開催
●「日本薬学会 第2回全国学生ワークショップ」に本学学生が参加
●日本薬学会北海道支部 第138回例会で学生優秀発表賞を受賞
●第35回北薬会定期総会・懇親会を開催
●父母後援会定期総会を開催
●第1・2回オープンキャンパスを開催
●平成24年度 第1回就職相談会を開催
●卒業研究発表会を開催
●前期ランチョンセミナー（薬系企業研究会）を開催
●日本私立学校振興・共済事業団 平成24年度学術研究振興資金交付
●平成24年度ノーステック財団補助金交付
●中学生と保護者を対象にした体験教室を開催
●薬剤師体験セミナー釧路を開催
●赴任のご挨拶
●新任のご挨拶
●平成24年度 前期授業アンケート結果
●全学町内清掃活動を実施
●各地の基幹病院に聞く「釧路赤十字病院」「市立釧路総合病院」
地域としての取組みと薬剤師のやりがい

1 卒業研究発表会のようす　2 就職相談会で企業から説明を受ける学生　3 第1・2回オープンキャンパスのようす
4 夕張での自由科目セミナーで指導を受ける学生　5 北薬祭での模擬店のようす

北海道薬科大学

フィラデルフィア テンプル大学での研究留学

生命科学分野　准教授　村岡　早苗

平成23年3月より平成24年2月まで、テンプル大学医学部心臓血管研究センター（Temple University Cardiovascular Research Center）の江口暁教授のもとで研究留学する機会をいただきました。

テンプル大学はペンシルベニア州フィラデルフィアにあり、法学、医学、薬学、歯学、建築学などの総合大学で、中心地近くにあるメインキャンパス、そこから少し離れた医歯薬学系のキャンパス、そのほか郊外や近郊に多くのキャンパスを持つほか、東京やローマ、ロンドンに国際キャンパスを持っています。私がお世話になったラボはテンプル大学病院前に2009年に新築された11階建ての医学部校舎の10階に位置し、窓からはフィラデルフィアの摩天楼を眺めることができます。また、実験室は仕切りのないオープンラボスタイルとなっていて、異なる研究室同士の交流が活発になされているためか、そこにいる教授陣をはじめ、学生やポスドク、スタッフ同士が仲良く、とても居心地の良い雰囲気でした。

私が滞在していたフィラデルフィアはペンシルベニア州南東部に位置する都市で、北東にニューヨーク、南西にワシントンD.C.があり、どちらも車なら3時間程度で行くことができます。またアメリカ独立の地として知られていて、7月4日には独立記念の行事が盛大に行われます。街中には自由の鐘や独立記念館、星条旗を最初に裁縫したといわれているベッツィ・ロスの生家などがあり、歴史の街であるとともに、映画『ロッキー』で主人公が階段を駆け上がった美術館やフィラデルフィア管弦楽団を持つ芸術の街でもあります。また、名門校であるペンシルベニア大学をはじめ、ドレクセル大学、私がお世話になったテンプル大学、トーマス・ジェファーソン大学など、レベルの高い大学が数多くあり、学生や研究者が多い街でもあります。

留学先の江口教授のラボは、テクニシャン、ポスドクを含め計6名が在籍しています。細胞・分子生物学や遺伝子改変動物などの実験を通じて、血管平滑筋や血管内皮細胞内の情報伝達と機能解析の研究が行われています。また、高血圧、アテローム性動脈硬化、糖尿病、代謝性疾患などに関連する血管の病態解明を目指した研究が活発に行われています。そして江口教授は、アンジオテンシンⅡ受容体1によって誘導される血管の形状変化の機序研究における先駆者のひとりでもあります。

私は留学期間中に培養細胞を用いた分子生物学的な実験や遺伝子工学の基礎実験などをさせていただきました。恥ずかしながら細胞や遺伝子に関する実験経験が少なかったため、基礎的な細胞培養のテクニックから始まり、細胞内タンパク質の検出方法、ウイルスを用いた細胞への遺伝子操作など、細胞生物学的研究のノウハウを丁寧に教えていただきました。主に携わったテーマは、「アンジオテンシンⅡ誘導心肥大へのSigma-1レセプターの関与について」でした。Sigma-1レセプターは、非オピオイド受容体として発見され、IP-3（Inositol trisphosphate）レセプターを介した細胞内カルシウム・シグナルの調節に関与するタンパク質として知られています。このSigma-1レセプターを遺伝子操作により過剰発現させた心血管内皮細胞を用いて、アンジオテンシンⅡによる刺激で変化する細胞内タンパク質の検出や細胞の肥大化を測定することで、Sigma-1レセプターがアンジオテンシンⅡによる細胞の肥大化を抑制する傾向にあることが確認できました。またSigma-1レセプターの発現を抑制（ノックダウン）した細胞では、アンジオテンシンⅡによる刺激で細胞内タンパク質が増加するという結果が得られました。短い期間でしたので、研究成果をまとめるところまではいきませんでしたが、最先端の研究現場を体験することで、今後の研究活動にとても刺激になりました。

1年間の短い留学期間でしたが、アメリカの文化や生活に触れ、貴重な体験や多くのことを学ぶことができました。今後、この体験を生かし、研究はもちろん、卒業研究の指導にも役立てたいと思います。今回、留学の機会を与えてくださった大和田前学長をはじめ、教職員の皆さまに感謝申し上げます。

ウィークリーラボミーティングのようす

ブレイクルームからのフィラデルフィア市街地

白衣授与式を挙行

平成24年8月16日（木）、札幌ガーデンパレスにて平成24年度白衣授与式を挙行しました。白衣授与式は、毎年、病院・薬局での各11週間にわたる実務実習を行う5年生に対して、実務実習に対する意識を高め、医療の現場に入る自覚を持ってもらう目的で行っています。

授与式では、5年生全員に各分野責任者である教員から白衣が授与された後、渡辺泰裕学長から激励の言葉があり、次いで北海道地区調整機構委員長・北海道薬剤師会副会長 宮本篤様、北海道病院薬剤師会副会長 田崎嘉一様、北海道薬科大学模擬患者の会 原谷宏治様よりご祝辞を戴きました。その後、5年生を代表して松崎円香さんが宣誓を行い、最後に桂青会会長 大野凌也君から松崎さんに花束が贈られました。

記念の集合写真

白衣授与のようす

5年生を代表して松崎さんが宣誓

桂青会役員委嘱状交付式を挙行

平成24年5月25日（金）17:30より、銭函大山にて平成24年度桂青会役員委嘱状交付式を挙行しました。引き続き開催した懇親会では、学長や学生部長と新旧桂青会役員が、これからの桂青会活動のあり方等について積極的な意見交換を行いました。今年度桂青会役員は次のとおりです。

新たな桂青会役員および委員の面々

委員長	大野凌也（3年）
副委員長	竹縄洋希（3年）
書記	今江敏浩（3年）
	岸野美里（2年）
会計	小林大祐（2年）
	竹内勇揮（2年）
監査	湊　健太朗（2年）
	日下陽介（1年）

【大学祭企画局】

局長	小倉有梨亜（2年）
副局長	立川啓祐（1年）
会計	高橋直也（1年）

【体育大会企画局】

局長	田代有紀（2年）
副局長	長尾竜児（2年）
会計	鍵谷瑞穂（1年）

【クラブ局】

局長	中村和也（2年）
副局長	中山景太（2年）
会計	鎌田稔也（1年）

【地域連携局】

局長	本田雄大（3年）
副局長	宮崎香菜子（2年）
会計	鈴木　栞（2年）

【障がい者支援局】

局長	小林孝広（2年）
副局長	齋藤裕介（1年）
会計	大塚晴子（2年）

【薬物乱用防止局】

局長	高橋雅也（2年）
副局長	田口雄太（1年）
会計	高橋侑季（2年）

自由科目セミナー「看護栄養学部生と学ぶ! 実践 地域医療」を夕張市で実施

昨年度に引き続き、自由科目セミナー「看護栄養学部生と学ぶ！実践地域医療」（担当：坂東勉准教授、伊東佳美講師）を、平成24年9月5日（水）から7日（金）までの3日間にわたり、本学の連携協定施設である夕張医療センター（八田政浩理事長）で実施しました。本セミナーは、高齢化の著しい夕張市で地域医療や多職種連携の重要性を学ぶことを目的としています。本セミナーには、本学の2、3年生9名と、本学と連携協定を締結している天使大学の看護学科および栄養学科の3、4年生6名の計15名が参加しました。学生たちは、診療所のスタッフとともに患者宅を訪問し、訪問診療、訪問看護、訪問薬剤管理指導、管理栄養士による食事指導を見学することで在宅医療に対する理解を深めました。さらに今年は、地域において散見される褥瘡（じょくそう）治療を体験しながら多職種連携のメリットについても学びました。

第37回北薬祭・体育大会を開催

第37回北薬祭を平成24年6月30日（土）、7月1日（日）に開催しました。快晴の朝、渡辺学長の開祭の挨拶で始まり、学生、教職員、地域の方々が多数参加しました。仮装大会、カラオケ大会、ダンス部発表会、花火大会、早食い大会、クイズ大会、BINGO大会などの企画のほか、薬草園見学会および薬用植物に関する講演会、薬物乱用防止キャンペーンなどの薬学部らしい催し物や、東日本大震災チャリティーバザーを行いました。以下、北薬祭および同日に開催した体育大会について桂青会役員より報告します。

第37回北薬祭

大学祭企画局　局長　2年　小倉 有梨亜

昨年度は、北薬祭の会計として参加しておりましたが、今年度は、北薬祭実行委員長として北薬祭の運営をさせていただきました。準備だけでなく当日にも、様々な問題がありましたが、無事に本番を終えることができたのは学生部、学生課や業者の方々、桂青会の皆さんのおかげだと思っています。また、一般の学生の方達にも多くのご協力をいただきました。ありがとうございました。

今年の北薬祭のテーマは大騒ぎという意味の「brouhaha」でした。学生だけでなく、地域の方々にも大騒ぎしてもらえるような北薬祭にしようと思い、このようなテーマになりました。昨年の北薬祭よりも、より皆さんに楽しんでいただけるものにしようと、北薬祭実行委員一同、力を合わせて準備しました。その結果、期間中の来場者数は昨年を越え、声優の平田広明さんによるトークショーや今年初企画の仮装大会や早食い大会も大いに盛り上がり、大成功となりました。昨年は天候の都合で綺麗に見られなかった恒例の花火大会も、打ち上げるには少し明るかったですが、綺麗に空を彩りました。

今回、北薬祭実行委員長をさせていただきましたが、一つの行事を企画、運営するということは、とても良い経験になりました。自分の力不足で実行委員の負担を増やしてしまった場面も数多くありましたが、委員のサポートのおかげで無事、北薬祭を成功させることができました。これからも、この経験を生かしていけるように学生生活を送りたいと思います。

最後に、北薬祭に関わった皆さん、本当にありがとうございました！

模擬店のようす

チアリーディングの発表

薬用植物園見学会のようす

恒例の花火

体育大会

体育大会企画局　局長　2年　田代　有紀

平成24年6月30日（土）、7月1日（日）の2日間の日程で体育大会を開催しました。1日目に玉入れとバスケットボール、2日目にバレーボール、そして2日間にわたってソフトボールの試合を行い、計4種目の競技内容でした。両日共に天候に恵まれ、けが人もなく、白熱した大会となりました。どの競技の参加チームも正々堂々とした戦いぶりだったと思います。大会参加者が体育大会に参加して良かったと思っていただければ幸いです。

では、平成24年度体育大会にて見事、優勝・準優勝に輝いたチームを紹介いたします。

【玉入れ】
優　勝：橋本ひろき21歳（ショルダー）
準優勝：じっぺぇ
戦　評：優勝チームと準優勝チームの得点差はなんと1点。どのチームも短い試合時間の中で、最後まで諦めずに競技をしていたことが印象的でした。

【バレーボール】
優　勝：片玉三倍
準優勝：新冠町広報
戦　評：各激戦ブロックを勝ち抜いた上位チームの力強いアタックや安定した美しいレシーブは観戦者すべてを魅了しました。

【バスケットボール】
優　勝：手倉森智哉24歳
準優勝：富田陽介22歳
戦　評：優勝・準優勝チームは本大会常連チームとなりました。放課後や休日に体育館で練習に汗を流していた成果が存分に発揮されていたと思います。

【ソフトボール】
優　勝：中山貴雄22歳
準優勝：片玉三倍
戦　評：2日間とも熱中症注意報が出る程の暑さの中、参加チームはそれに負けないような白熱した試合を繰り広げていました。

「日本薬学会 第2回全国学生ワークショップ」に本学学生が参加

平成24年8月7日（火）、8日（水）にクロス・ウェーブ府中（東京）で開催された「日本薬学会 第2回全国学生ワークショップ 6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」に、本学代表として6年生の高橋美衣さんが参加しました。高橋さんは、他大学の学生と話し合いながら、6年制薬学教育を通して成長したこと、やり残したことなどをもとに、「6年制薬学教育に望むこと」や「卒業後に取り組んでいきたいこと」をまとめていくことで、ワークショップの成功に大きく貢献しました。

発表のようす

日本薬学会北海道支部 第138回例会で学生優秀発表賞を受賞

平成24年6月16日（土）に開催された日本薬学会北海道支部 第138回例会において、本学の大学院生が学生優秀発表賞を受賞しました。受賞者の氏名と演題は次のとおりです。

大学院博士後期課程
生物薬学専攻3年　岩山 訓典 君

「正常細気管支上皮細胞に及ぼすクラリスロマイシンの濃度及び処理時間に関する研究」

学生優秀発表賞を受賞した岩山訓典君

第35回北薬会定期総会・懇親会を開催

平成24年6月2日（土）、札幌全日空ホテルにおいて第35回北薬会定期総会・懇親会が開催されました。昨年までは、Home Comingとして大学祭期間中に大学を会場として行っていましたが、今回から再び札幌での開催となりました。

定期総会には43名の同窓生が集まり、齊藤博久副会長（6期卒）の議事進行により、平成23年度活動報告・決算報告ならびに平成24年度活動計画・予算案が承認されました。

定期総会終了後、会場を23階に移し懇親会が開催されました。懇親会には、各支部長や案内を見て初めて参加した同窓生、また、本学からは渡辺泰裕学長や本学OBの教員が参加し、総勢47名の賑やかな会となりました。

左より唐沢北薬会会長、渡辺学長、高杉北薬会副会長

懇親会のようす

父母後援会定期総会を開催

大学祭期間中の平成24年6月30日（土）13:00より、本学C301教室においてご父母の皆様、教職員含め87名の出席のもと、平成24年度北海道薬科大学父母後援会の定期総会を開催しました。提出された議案については、審議の結果、すべて原案のとおり承認されました。

総会終了後には渡辺学長より本学のキャンパス移転構想について説明がありました。これに引き続き、父母後援会主催で、ベネッセコーポレーション西日本営業課・課長の神崎則男氏を講師としてお招きし、大学生の心理と行動の傾向について考察する教養セミナー「大学生世代の心のトレンドを考える」が開催されました。

父母後援会定期総会のようす

第1・2回オープンキャンパスを開催

第1回・第2回オープンキャンパスを平成24年8月4日（土）、5日（日）に開催しました。両日ともあいにくの天気となってしまいましたが、会場は多くの高校生および保護者・同伴者の参加で賑わいました。大学紹介に始まり、自由選択制の模擬講義や体験実習、薬用植物園ツアー、学内見学ツアーなど、盛りだくさんのスケジュールでした。各企画を通して本学および薬学への理解を深めていただけたものと思います。

なお、第3回オープンキャンパスは平成24年10月7日（日）に開催する予定です。

模擬講義のようす

体験実習（無菌調剤）のようす

体験実習（患者コミュニケーション）のようす

平成24年度 第1回就職相談会を開催

病院(64)、薬局(91)、製薬企業・医薬品卸・行政機関(9)など計164施設の採用担当者のご参加のもと、平成24年度第1回就職相談会を5月11日(金)に桂青館および313実習室で開催しました。

渡辺泰裕学長、桜井光一就職部長の挨拶、オリエンテーション、教員との会食形式の昼食の後、12:30から15:30の間、それぞれのブースに分かれて個別面談を行いました。学生の参加総数は384名(3年生3名、4年生77名、5年生142名、6年生159名、大学院生3名)でした。学生は各ブースで担当者から採用や職務に関する説明を受け、また相談や質問などを活発に交わしました。

就職相談会のようす

なお、平成24年度の第2回就職相談会は11月30日(金)を予定しています。「参加施設の情報をもっと早く知りたい」という、多くの学生からの要望に応えるために、11月中旬から参加施設の紹介ポスターを就職資料室に掲示します。また、就職相談会を含めた就職に関する最新情報は、本学ホームページ上に順次掲載します。

卒業研究発表会を開催

6年生による卒業研究発表会を平成24年9月13日(木)、14日(金)に開催しました。発表は昨年と同様にポスター形式で行いました。学生たちは、精力的に取り組んできた卒業研究の成果を、自ら作成したポスターを用いて、教員、院生、学部生の前で、やや緊張した様子で説明していました。また、卒業研究を開始したばかりの5年生からは、鋭い質問が投げかけられていました。

ポスターの前で質疑応答する学生

PCを利用して発表する学生も

会場のようす

前期ランチョンセミナー(薬系企業研究会)を開催

今年で3年目となる、就職支援イベントの一つであるランチョンセミナーの平成24年度前期分を6、7月に9回開催しました。薬系企業研究会は製薬企業、病院、薬局などがランチョンセミナー形式で企業の社会的役割、方針、労働環境等を学生に対し説明するものです。各回ともほぼ定員を満たす学生が参加し、熱心に採用担当者の説明に耳を傾け、また積極的な質疑応答を行っていました。

日本私立学校振興・共済事業団 平成24年度学術研究振興資金交付

日本私立学校振興・共済事業団から、平成24年度の学術研究振興資金の採択課題が発表されました。研究代表者および研究課題は右記のとおりです。

佐藤久美
「新たなインスリン抵抗性発症機序の解明」

平成24年度ノーステック財団補助金交付

ノーステック財団から、平成24年度の「研究開発助成事業 イノベーション創出研究支援事業 スタートアップ研究補助金」の採択課題が発表されました。研究代表者および研究課題は右記のとおりです。

丁野純男
「イムノリポソームによるＤＤＳを利用した
革新的な動脈プラーク治療法の開発」

中学生と保護者を対象にした体験教室を開催

大学祭期間中の平成24年7月1日（日）11:00～14:00に、臨床講義棟（C棟）で、日本薬学会北海道支部との共同主催による中学生と保護者対象の「体験！薬剤師！選べるワクワク体験教室」を開催し、中学生47名と保護者42名の出席がありました。

「薬剤師」についての説明の後、生徒の皆さんは、本学の学部生、大学院生が講師を担当するフィジカルアセスメントモデル（フィジコさん）を用いたバイタルサイン測定、薬用植物園の植物を使用した薬用入浴剤や薬用化粧水、ヘアジェル、リップクリーム、ルームフレグランス作りの6種の体験教室にそれぞれ参加しました。

フィジコさんを用いた体験教室（同右）

薬剤師体験セミナー釧路を開催

平成24年9月9日（日）10:00より、釧路プリンスホテルにおいて近郊の高校生と保護者の参加による薬剤師体験セミナー釧路を開催しました。薬剤師体験セミナーは、大学でのオープンキャンパスに参加できなかった高校生、保護者の方などを対象に行っています。

入試部長による開会の挨拶から始まり、薬剤師の仕事について紹介した後、釧路市で病院薬剤師・薬局薬剤師として働いている本学の卒業生にスタッフとして参加いただき、軟膏剤、アロマスプレー、化粧水、薬用入浴剤を作る体験実習を行いました。昼食後に開催した個別相談では、終了時刻が延びるほどの、たくさんの質問がありました。

体験実習のようす

赴任のご挨拶

医薬化学分野　講師　鈴木　裕治

本年度4月より本学へ赴任いたしました医薬化学分野の鈴木裕治と申します。工学院大学にて、指導教員の南雲紳史先生（応用化学科教授）の下、博士（工学）の学位を取得しました。本学では有機化学Ⅰ、生物有機化学、演習Ⅱを担当しております。

私は生まれも育ちも東京都で、家から5分も歩くと現在のスカイツリーが見える所に住んでおりました。北海道には、今年、北海道大学で開催された日本薬学会第132年会への参加と同時に引っ越し、現在にいたります。4月の後半まで降り続けた雪には驚かされましたが、夏は涼しく、車を走らせると眼下に広がる豊かな自然に心を癒されております。

私の専門は有機化学で、主に医薬品を安価な市販原料から作り上げていく有機合成化学についての研究を行っております。学部生の頃は高分子やアパタイトなど素材系の科目に興味を持っておりました。しかし、研究室を決める年に北海道大学名誉教授の宮下正昭先生（現・工学院大学付属中学・高等学校校長）が工学院大学へ赴任されることとなり、その研究紹介講演を拝聴しました。今聞いたとしても非常に高度な内容の講演で、宮下先生の研究に対する熱意に心を揺さぶられ、「こういう研究をやってみたい」とその時決めたのを覚えております。こうして有機合成化学の道へ進むこととなり、宮下正昭先生と当時助教授であった南雲紳史先生の師事のもと研究に没頭する日々が続きました。その中で、植物病原性のカビに対して増殖抑制効果を示す『ベンツリシジン類』の合成研究と新規反応の開発に着手し、現在も引き続きその研究を行っております。

研究室在籍中は研究を円滑に行うために「人材の育成」、「教育とは何か」ということも考えさせられました。この時の経験を本学での教育にも生かせたらと思っております。

私は前述の通り工学部出身ですので、薬学教育について分からないこともまだまだございますが、専門である有機化学を軸として「地に足のついた教育を行えたら」と思っておりますので、皆様、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新任のご挨拶

自然科学分野　講師　高橋　夏子

この度、平成24年4月1日付で北海道薬科大学自然科学分野の講師として着任いたしました高橋夏子と申します。本学での講義は物理化学Ⅰ、演習、実習を担当しております。

私は酪農学園大学酪農学部食品化学科を卒業後、同大学大学院酪農学研究科食品栄養科学専攻修士課程、さらに同大学院の博士課程へ進み、機能性食品素材の合成を専門に研究してきました。学生時代は、機能性食品素材の合成、構造・機能解析をはじめとする研究の楽しさ、厳しさを学びました。修士課程2年のときに、北海道大学大学院薬学研究院井関健教授の研究室で実験手法を学ぶ機会があり、当時の井関研の研究テーマの一つだった「医薬品と食品の相互作用」という農学の世界ではあまり目にすることのなかった研究を目にし、この出会いが私の研究に大きな影響を与えることとなりました。博士課程修了後は、北海道大学大学院医学研究科のプロジェクト「がんプロフェッショナル養成プラン」の博士研究員として、受け入れ先であった北海道大学病院薬剤部・同大学大学院薬学研究院臨床薬剤学研究室 井関健部長／教授の下、「がん化学療法におけるプロトコルの薬学的および薬物動態学的検証と各薬剤の適正使用」に関する研究に着手し、抗がん薬の使用に関する基礎的研究に4年間取り組みました。最後の1年間は、大学院までの食品の知識と、研究員時代に学んだ抗がん薬の知識を融合し、「抗がん薬と食品の相互作用に関する研究」というテーマを立ち上げました。がん患者さんの安全性確保に貢献したいと思い、現在も奮闘している最中であります。

北海道薬科大学への赴任が決まったときは、初めての学部教育、また分野の違う薬学部の教員ということもあり不安も多くありましたが、現在は多くの先生方、事務局の皆さまの助けがあり、良い環境で教育・研究に取り組むことができ、感謝しております。

これからは社会に貢献できる研究を展開し、教育に関しても力を注いでいきたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成24年度 前期授業アンケート結果

平成24年度前期授業アンケート結果がまとまりました。平均、最大、最小は各質問項目に対して「強くそう思う」、「そう思う」、「どちらともいえない」、「そうは思わない」、「全くそうは思わない」をそれぞれ5点、4点、3点、2点、1点として集計した結果です。詳細は本学ホームページの学内専用ページに掲載しています。授業アンケート結果は、学生が自由記入欄に記載した、より具体的なコメントとともに、科目担当教員にフィードバックすることで効果的に活用しています。

●中間アンケート結果

			全くそうは思わない (%)	そうは思わない (%)	どちらともいえない (%)	そう思う (%)	強くそう思う (%)	平均	最大値	最小値
1年中間	問1	教員に熱意は感じられますか。	2.28	5.04	20.16	53.09	19.43	4.0	4.4	3.2
	問2	教員の教え方はわかりやすいですか。	9.11	12.85	24.47	40.16	13.41	3.6	4.0	2.4
	問3	教員の話し方は聞き取りやすいですか。	7.40	12.85	21.95	42.28	15.53	3.7	4.4	2.1
	問4	資料はわかりやすいですか。	4.39	9.02	27.32	43.90	15.37	3.6	4.2	2.8
	問5	授業の内容をわかりやすくする工夫が感じられましたか。	6.34	11.46	26.99	41.46	13.74	3.6	4.2	2.8
	問6	教員は学生が授業に集中できる雰囲気作りに配慮していましたか。	4.07	7.07	25.61	45.37	17.89	3.8	4.2	3.1
2年中間	問1	教員に熱意は感じられますか。	0.35	3.54	21.42	58.32	16.37	3.8	4.3	3.4
	問2	教員の教え方はわかりやすいですか。	1.50	8.05	25.66	52.74	12.04	3.7	4.1	3.4
	問3	教員の話し方は聞き取りやすいですか。	0.97	5.40	25.58	52.21	15.84	3.7	4.3	3.3
	問4	資料はわかりやすいですか。	1.50	5.22	27.79	50.09	15.40	3.7	4.2	3.3
	問5	授業の内容をわかりやすくする工夫が感じられましたか。	0.88	3.98	25.58	55.66	13.89	3.8	4.2	3.4
	問6	教員は学生が授業に集中できる雰囲気作りに配慮していましたか。	0.53	3.81	29.12	51.33	15.22	3.8	4.2	3.5
3年中間	問1	教員に熱意は感じられますか。	0.57	1.90	27.59	54.61	15.32	3.8	4.2	3.3
	問2	教員の教え方はわかりやすいですか。	1.33	5.61	28.83	48.72	15.51	3.7	4.2	3.4
	問3	教員の話し方は聞き取りやすいですか。	0.76	3.52	27.88	52.90	14.94	3.8	4.3	3.5
	問4	資料はわかりやすいですか。	1.33	5.14	32.54	44.53	16.46	3.6	4.2	3.2
	問5	授業の内容をわかりやすくする工夫が感じられましたか。	0.67	3.43	31.97	47.86	16.08	3.7	4.1	3.3
	問6	教員は学生が授業に集中できる雰囲気作りに配慮していましたか。	0.86	4.47	31.59	44.81	18.27	3.7	4.2	3.3
4年中間	問1	教員に熱意は感じられますか。	3.43	3.43	31.40	49.96	11.79	3.7	4.0	3.4
	問2	教員の教え方はわかりやすいですか。	4.22	6.51	34.12	44.24	10.91	3.5	4.1	2.9
	問3	教員の話し方は聞き取りやすいですか。	3.61	5.54	30.96	47.49	12.40	3.6	4.2	3.2
	問4	資料はわかりやすいですか。	4.40	5.19	35.09	43.62	11.70	3.6	4.1	3.1
	問5	授業の内容をわかりやすくする工夫が感じられましたか。	4.05	4.84	34.04	45.91	11.17	3.6	4.0	3.2
	問6	教員は学生が授業に集中できる雰囲気作りに配慮していましたか。	3.25	3.69	37.47	45.03	10.55	3.6	4.0	3.3

※5年次は授業スケジュールの都合により中間アンケートは実施しませんでした。

●最終アンケート結果

			全くそうは思わない (%)	そうは思わない (%)	どちらともいえない (%)	そう思う (%)	強くそう思う (%)	平均	最大値	最小値
1年最終	問1	私はこの授業内容を理解できた。	2.97	6.98	24.63	52.39	13.03	3.8	4.4	2.8
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	1.10	2.92	18.11	53.94	23.94	4.0	4.8	3.4
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	3.35	5.94	25.95	49.09	15.67	3.7	4.4	3.0
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	3.68	6.98	22.48	50.14	16.71	3.8	4.4	2.9
2年最終	問1	私はこの授業内容を理解できた。	2.13	4.76	30.93	52.52	9.66	3.6	3.9	3.4
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	1.11	2.73	22.98	58.02	15.16	3.8	4.1	3.6
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	1.48	4.25	32.22	49.93	12.11	3.6	3.9	3.3
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	1.71	4.35	26.49	54.74	12.71	3.7	4.1	3.4
3年最終	問1	私はこの授業内容を理解できた。	1.66	4.72	35.37	47.02	11.23	3.6	3.9	3.3
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	1.66	2.15	27.46	49.58	19.14	3.8	4.1	3.6
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	1.73	4.02	35.02	47.23	12.00	3.6	3.9	3.2
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	1.80	4.44	31.83	48.06	13.87	3.7	4.1	3.3
4年最終	問1	私はこの授業内容を理解できた。	3.64	3.92	36.27	44.05	12.11	3.6	4.1	2.8
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	2.10	2.52	34.87	42.79	17.72	3.8	4.2	3.4
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	2.86	4.65	38.13	40.99	13.38	3.6	3.9	3.0
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	3.09	4.42	35.09	43.44	13.96	3.6	4.0	3.0
5年最終	問1	私はこの授業内容を理解できた。	2.63	5.12	40.28	44.52	7.46	3.5	3.7	3.0
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	1.72	1.94	35.70	47.96	12.69	3.7	3.9	3.4
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	2.49	4.31	38.67	43.64	10.89	3.6	3.7	3.2
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	3.29	4.82	37.57	44.88	9.43	3.5	3.8	3.0

全学町内清掃活動を実施

平成24年6月8日（金）13:30から約1時間30分にわたり、桂岡・銭函地区を対象にした全学町内清掃活動を実施しました。今年は、学生と教員を合わせて合計454名が参加し、35％の参加率（昨年33％）でした。若干、雨が降りそうな雲行きでしたが、幸いにも何事もなく終了し、40Lゴミ袋で21個分のゴミを回収することができました。

清掃活動のようす（同右2点）

平成25年度

学生募集要項

◎募集学部・学科／薬学部・薬学科（修業年限6年）
◎入学定員／210人

● 一般入試

	前期 ※1		後期
	A日程	B日程	
募集人員	47人		3人
出願期間	平成25年1月7日（月）～1月24日（木）必着		平成25年2月4日（月）～2月12日（火）必着
試験日	平成25年2月1日（金）	平成25年2月2日（土）	平成25年2月16日（土）
試験地	本学、函館、釧路、秋田、仙台、東京		本　学
試験科目	数学、外国語、理科		

● 推薦入試

	公募制推薦	指定校推薦	系列校推薦
募集人員	25人	50人	30人
出願期間	平成24年11月1日（木）～11月7日（水）必着		
試験日	平成24年11月10日（土）	平成24年11月11日（日）	
試験地	本　学		
試験科目	書類審査、小論文、面接	書類審査、面接	

● AO入試

	同窓生子女	後継者育成	障がい者
募集人員	20人	15人	2人
エントリー受付期間	平成24年7月20日（金）～9月7日（金）必着		
出願許可発表日	平成24年10月12日（金）		
出願期間	平成24年11月1日（木）～11月7日（水）必着		
最終試験日	平成24年11月11日（日）		
試験地	本　学		
試験科目	書類審査、面接		

● 大学入試センター試験利用入試

	前期	後期
募集人員	12人	3人
出願期間	平成25年1月7日（月）～1月29日（火）必着	平成25年2月4日（月）～2月20日（水）必着
試験日・試験地	本学独自の試験は実施しません。	
指定科目	数学、外国語、理科	

● 社会人入試

募集人員	3人
出願期間	平成24年11月1日（木）～11月7日（水）必着
試験日	平成24年11月10日（土）
試験地	本学
試験科目	数学、外国語、理科、面接

※1　一般入試前期のA日程・B日程の両日受験も可能です。試験科目の詳細な範囲は学生募集要項を参照してください。

本学に関するよりくわしい情報は、ホームページでご覧ください。 http://www.hokuyakudai.ac.jp/

かつら［KATSURA］
北薬大情報 桂
北海道薬科大学広報部
PUBLIC RELATIONS MAGAZINE
2012.10.5 Vol.115

各地の基幹病院に聞く

釧路赤十字病院　市立釧路総合病院

地域としての取組みと薬剤師のやりがい

釧路赤十字病院
薬剤部長　千田泰健 氏

市立釧路総合病院
薬局長　森本淳 氏

地域医療の一員として、医師や看護師とともに、その活躍が期待される薬剤師。道内の各エリアでは、それぞれどんな環境があり、薬剤師はどのようなポジションを担っているのか。求められているのか――。今回は釧路市を訪ね、釧路赤十字病院の千田泰健薬剤部長、市立釧路総合病院の森本淳薬局長に、同管内における薬剤師の現状と、地域での活動についてお話を伺いました。お二人は、高校・大学も同じで同期の仲で、今も深い親交があり息もピッタリの対談となりました。

――釧路市の医療体制と薬剤師の現状は？

千田　釧路市には市立釧路総合病院、釧路労災病院、釧路赤十字病院という三つの基幹病院があります。当院は総合周産期母子医療センターとして釧路、根室管内の産科、小児科医療をカバーしています。薬剤部においては、広く業務を行っていますが、薬剤師数の不足からすべての病棟には薬剤師を配置できていないのが現状です。

森本　当院は平成21年からドクターヘリを運航、三次救急拠点として救命救急センターを備えていますが、同じように薬剤師の数が少なく、配置できていません。

千田　当院はベッド数489床で薬剤師は15名です。今年4月からアンプルピッカーと医薬品SPD（物流管理システム）を導入し、8病棟に専任薬剤師を配置しました。今後、病棟薬剤業務実施加算の取得に向けて、薬剤師の増員を強く要望しているところです。

森本　当院も病棟への薬剤師の専任配置を進めており、人員を増強していく方針です。病院薬局は今、医療チームの一員として医師、看護師と対等な活躍が求められていることを学生の方々には知ってほしいですね。

――薬剤師の人材確保や実務実習への取組みは？

千田　釧路市で勤務する薬剤師の多くは、管内の出身者です。そこで、薬剤師の魅力とともに職場としての地元の良さを知ってもらおうと、北薬大の先生にもご協力をお願いして高校1、2年生を対象に、講演会と、当院の薬剤部での体験見学会を実施しました。「薬剤師の役割がわかった」、「受験を考えてみたい」といった感想文ももらえて、好感触でした。

森本　全国どこからでも釧路に来てほしいのですが、地元の若者にアピールすることは大切だと思いますね。

千田　実務実習の受け入れ体制も整えようということで、三病院を中心に共通テキストをもとに準備を進めています。当院では15名の薬剤師全員が実務実習の指導機会を持ち病棟業務、調剤、注射、抗癌剤のミキシングまで指導するほか、DIニュースも一緒に作成し、院内で配布しています。

森本　当院では、病棟での実習ということに力を入れています。病棟担当の薬剤師がマンツーマンで指導、いくつかの科をローテーションさせています。臨床現場に触れられるということで好評ですね。

――薬剤師同士の連携や情報共有の環境は？

千田　釧路では、薬剤師会と病院薬剤師会が一体となり、様々な交流・活動を行っています。今年、釧路にも北海道薬剤師会の基幹薬局ができ、クリーンルーム、クリーンベンチが設置されました。今後、在宅の輸液管理などが可能となります。そこで地域で共同利用するにあたって勉強会や研修会の開催を合同で準備しています。

森本　一方で、患者情報の共有という点では、やはり薬剤師の不足から思うようにいかない面もありますね。

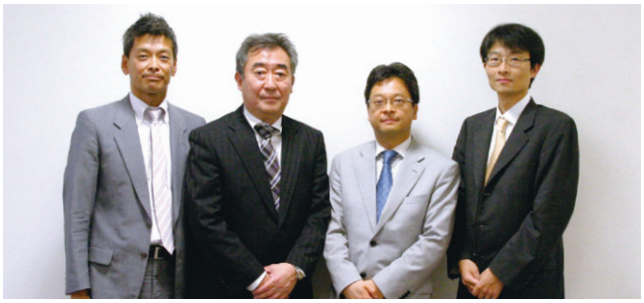
千田　そうですね。退院時の情報提供は十分にできていないのが現状。また、森本先生の病院では外来化学療法室に薬剤師が入りましたが、当院はまだ対応できないということも当面の課題です。

森本　当院も余裕があるわけではないのですが、診察の前に薬剤師が患者の状況を把握して情報提供を行うことでドクターの負担軽減と、的確な処方設計に役立っている実感があります。

千田　釧路では6年前から当院が中心となり、地域一体の糖尿病療養指導を目指して「釧路CDE研究会」を立ち上げ、多職種が連携して研究会や、地域へ向けた情報発信を行っています。基幹三病院も連携するこの活動は、全国からも注目されています。

森本　医療関係の最新情報も得やすいので、地方だから取り残されるといった心配は皆無。薬剤師会の枠を越えた語り合いの場、早い話が飲み会なども多いですし（笑）。

千田　特に秋は、おいしい食べものが揃っているので、まずは実務実習に来て釧路の味覚を実感してください（笑）。



左より本学実務実習委員長 早川達、市立釧路総合病院薬局長 森本淳氏、釧路赤十字病院薬剤部長 千田泰健氏、本学広報部長 戸田貴大

北薬大情報

北海道薬科大学広報部

2013.3.14
Vol.116

桂

かつら [KATSURA]

発行：北海道薬科大学　〒047-0264 小樽市桂岡町7番1号
TEL(0134)62-5111　FAX(0134)62-5161
URL http://www.hokuyakudai.ac.jp

CONTENTS

●本学のロゴが変わります
●キャンパス移転計画
●北海道札幌手稲高等学校と高大連携教育協定を締結
●平成24年度第2回就職相談会を開催
●後期薬系企業研究会（ランチョンセミナー）を開催
●平成24年度父母懇談会を開催
●ニュージーランド オークランド大学における研修・研究留学を終えて
●第3回オープンキャンパスを開催
●薬剤師体験セミナー函館を開催
●親子のための薬剤師体験セミナー・附属薬局見学会を開催
●日本薬局学会学術総会でポスター優秀賞を受賞
●日本薬学会北海道支部例会で学生優秀発表賞を受賞
●天使大学との連携公開講座で本学教員が講演
●北海道尚志学園高校第1回学校見学会に参加
●「第39回北海道つぼみの会サマーキャンプ」に参加して
●丹保教授が「道民カレッジ」講師としてテレビ出演
●Rane教授の特別講義を開催
●石川先生の特別講演会を開催
●名倉先生の特別講演会を開催
●卒業25周年記念祝賀会（10期生）報告
●平成24年度薬学共用試験が終了
●Pharm＊Hで薬剤師について考えてみませんか
●新任教員からのご挨拶
●平成24年度本学奨学生（1年生）が決定
●父母後援会奨学生証書授与式を実施
●名誉教授授与
●「大和田賞」創設
●退職教員
●小樽地区救急法赤十字奉仕団より感謝状を授与されました
●雪かきボランティアを実施

1

2

3

4

5

1 北海道札幌手稲高等学校との調印式　2 親子のための薬剤師体験セミナー
3 第3回オープンキャンパス　4 第2回就職相談会　5 雪かきボランティア

北海道薬科大学

本学のロゴが変わります

このたび本学は、開学30周年の記念行事の一環として制作し、皆さまに親しまれてきたロゴを変更することになりました。この変更は、本学設置母体である北海道尚志学園のブランド戦略にともなうものです。

北海道薬科大学
北海道薬科大学
これまでのロゴ

北海道薬科大学
+Professional
新しいロゴ

新シンボルマーク

Progress“H”と名付けられた、法人と設置校の共通シンボルマークです。“Hokkaido”の“H”をベースに、繋がりと成長のバネ、実学系総合大学としての広がり、学生と地域社会の躍進を表しています。ひとり一人の目的意識を高め、行動を勇気づけることが目的です。色は、情熱的な「アクティブオレンジ」です。

新スローガン

+Professional

ヒューマニティ、コミュニケーション能力、問題発見解決能力、マネジメント能力といった基盤能力を基に、専門性を身につけている人材が社会に必要です。単なる「Professional」だけではなく、後付けの「Professional+」でもない、基盤能力を前提とする「+Professional」を育成することを示すスローガンです。

なお、カプセル型の薬とコップにそそがれた水面をデザインした本学イメージキャラクターに変わりはありません。今後も本学作成のさまざまなグッズに登場いたしますので、引き続きご愛顧ください。

キャンパス移転計画

「桂」114号でお知らせしたように、本学は平成27年4月に北海道工業大学のある前田キャンパス（札幌市手稲区）に新校舎を建築し、主要機能を移転します。移転にあたっては、すべての学年が同時に前田キャンパスへと移る予定です。

本学の新校舎建築・移転とは別に、系列校である北海道工業大学では学部・学科の改組を計画しております。本学は、道工大の改組により誕生する予定の医療系学部・学科と連携し、多職種連携の意識付けにつながる教育を同じキャンパス内で展開するなどして、今後も薬剤師養成教育を充実していきます。

前田キャンパス建築予定図

桂岡キャンパスについては、今後研究・研修施設として活用する等、薬用植物園も含めて存続していく計画です。

キャンパス移転計画の今後の予定については、逐次ホームページ（http://www.hokuyakudai.ac.jp）等でお知らせいたします。

北海道札幌手稲高等学校と高大連携教育協定を締結

本学は北海道札幌手稲高等学校と高大連携教育に関する協定を締結しました。

平成24年12月3日(月)に本学で調印式を執り行い、北海道札幌手稲高等学校の中村均校長と、本学の渡辺泰裕学長が協定書にサインしました。

この協定は、「進路決定の積極的な取り組みを支援し、教育の機会を拡大する」ことを目的としています。今後はキャリア教育の一環として進路選択のための体験講義・実習等を提供する予定です。

調印式で握手する本学渡辺学長(左)と
中村均 札幌手稲高等学校長(右)

平成24年度第2回就職相談会を開催

平成24年度第2回就職相談会を、北海道内と道外の病院(55)や薬局(84)、製薬企業・医薬品卸・行政機関(10)など計149社の採用担当者の参加のもと、平成24年11月30日(金)に本学313、319、419実習室および図書館3階で開催しました。

当日は、11時から渡辺泰裕学長、桜井光一就職部長の挨拶とオリエンテーションを実施しました。引き続き、本学学生食堂へ移って教員と採用担当者による会食形式での昼食会を開催し、就職状況および学生に関して情報を交換しました。昼食後から15時30分までの約3時間、それぞれブースに分かれて学生との個別面談を行いました。学生の参加総数は231名で、その内訳は3年生21名、4年生27名、5年生155名、6年生26名、大学院生2名でした。学生は各ブースで採用担当者と、採用や職務に関する説明や就職試験や勤務地に関する疑問や質問などを活発に交わしました。

なお、平成25年度の第1回就職相談会は4月19日(金)を予定しています。

就職相談会を含めた就職に関する最新情報は本学ホームページ上に順次掲載します。

就職相談会のようす

後期薬系企業研究会(ランチョンセミナー)を開催

平成24年9～10月に、臨床講義棟(C棟)演習室を会場として後期薬系企業研究会(ランチョンセミナー)を計8回開催しました。参加した学生は、採用担当者からの会社概要、薬剤師業務・役割、薬剤師研修体制などの説明を熱心に聴いていました。これをもって、今年度の薬系企業研究会はすべて終了しました。

平成24年度父母懇談会を開催

平成24年10月に、本学および道内5地区(北見、釧路、旭川、帯広、函館)、道外5地区(青森、盛岡、仙台、秋田、東京)において父母懇談会を開催しました。今年度は359名(対在籍学生数27.7%)のご父母の方々に参加いただき、学生生活と学業について様々な情報を交換しました。本学開催では学生食堂をご父母の控室とし、学生生活の体験の一つとして、学生に提供している食事を昼食に用意しました。試食した方からのアンケートでは、良い評価をいただきました。

今年度の学年別参加状況は、1年次学生のご父母の参加が最も多く、学生生活を送るうえでの相談を多く受けました。今後とも、ご父母の皆様と密に連携をとりながら学生を支援していきます。

父母懇談会のようす

ニュージーランド オークランド大学における研修・研究留学を終えて

薬物治療学分野　准教授　齊藤 嘉津彦

私は、平成23年4月から平成24年3月の期間、ニュージーランドの北島、オークランド市にあるオークランド大学にて研修・研究留学を行ってきました。

多くの方がそうだと思いますが、私のニュージーランドに対するイメージといえば、まず、なによりも「大自然」だったでしょうか。具体的には、羊と牧羊犬、鳥のキーウィや果物のキウイフルーツ、先住民のマオリ人、ラグビー試合の際に相手を威嚇することで知られるマオリ族の「ハカ」と呼ばれるダンス、それとラグビーの強豪であるニュージーランド代表チーム「オールブラックス」などでした。

サッカーのワールドカップほどは知られていませんが、実はラグビーにもワールドカップがあり、留学中、これがニュージーランドで開催されました。今回、ニュージーランド国民の誇りであるオールブラックスが優勝したこともあり、私がいた期間は国中が大きな盛り上がりをみせていました。残念ながら、日本は1勝すらすることができずに予選敗退してしまいましたが、ラグビーというスポーツの迫力と面白さを知る良い機会になりました。

また、私が住んでいましたオークランド市はニュージーランド最大の都市で、人口は百数十万人（ニュージーランドの総人口は450万人弱）、“City of Sails（帆の街）”とも呼ばれ、巨大なヨットハーバーがある、近郊には自然が多い暮らしやすい素敵な街です。蛇足ですが、ニュージーランドの船舶保有率は世界有数で、約10人に1人はヨットのような船を持ち（特に、オークランドでは3軒の家に1軒の割合）、マリンスポーツやボートフィッシングが好きな人にとっては天国ということのようです。

さて、留学先であるオークランド大学はCity、Grafton、EpsomおよびTamakiの4つのメインキャンパスと、Kawakawa、Leigh Marine Reserve、Manukau、およびTai Tokerauの4つのサテライトキャンパスからなっています。（Tamaki、Kawakawa、ManukauおよびTai Tokerauなどはマオリ語の地名）。学部としては Arts、Business、National Institute of Creative Arts and Industries、Education、Engineering、Law、Medical and Health Sciences、Scienceなどがこれらのキャンパスに配置されています。

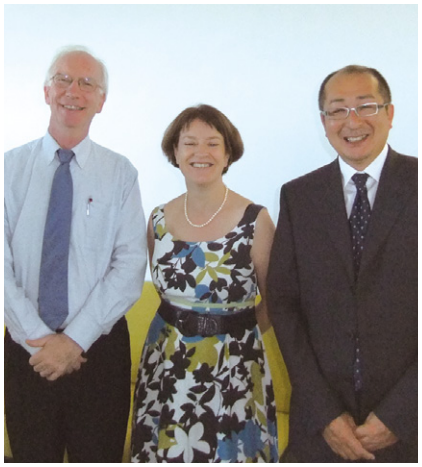
今回、私はオークランドの市街中心部からほんの少し離れた場所に位置するGraftonキャンパスのMedical and Health Sciences（医学・健康学部）にあるSchool of Pharmacy（薬学部）とSchool of Medical Sciences（医科学部）の両方に籍を置かせて頂きました。この学部にはSchool of PharmacyとSchool of Medical Sciencesの他にもSchool of Medicine（医学部）やSchool of Nursing（看護学部）が含まれています。

オークランド大学内における種々のコーディネートは、School of Pharmacyの長であるJohn P. Shaw教授に頂戴致しました。なお、Shaw教授には平成23年9月に本学で開催された特別講演会にてご講演を頂いております（「桂」113号 参照）。また、研究についてはSchool of Medical Sciences、Molecular Medicine and Pathology（分子医学・病理学）部門のDr. Nuala Helsbyにお世話になることができました。Dr.HelsbyはMolecular biomedicine and cancer research（分子生医学・がん研究）グループの腫瘍薬理遺伝学の主任研究員であり、CYP2C19やCYP2B6と抗がん薬の臨床研究を精力的に行っておられます。今回、私はこの研究室において、抗がん薬である5-FUの副作用のバイオマーカーとなると考えられる生体内のウラシルとその代謝物であるジヒドロウラシルのLC/MSでの定量をテーマに研究を行いました。短い期間ではありましたが、これらの精度の良い定量法を構築することができ、これを機会にDr.Helsbyの研究室と共同研究を引き続き進めていくことになりました。

なお、オークランドの市中薬局やメディカルセンターに併設されている薬局等についても見学研修してきましたが、2年前、同じオークランド大学に薬事管理学分野の村上美穂准教授が留学されていますので、ニュージーランドの医療行政や薬局を含む医療事情等の概略は「桂」110号を参照頂ければ幸いです。

最後になりましたが、この貴重な機会を与えて頂きました大和田前学長をはじめ、関係者の皆様に心より感謝致します。

ラグビーワールドカップで優勝したオールブラックスのパレード



モーニングティーでShaw教授、Helsby先生と一緒に

第3回オープンキャンパスを開催

第3回オープンキャンパスを平成24年10月7日(日)に開催し、高校生および保護者・同伴者の方が多数参加しました。

大学紹介および自由選択制の模擬講義の後に、「注射剤調製」、「軟膏剤づくり」などの体験実習を行いました。今回は初の試みとして、血圧や心拍数などが測定できるフィジカルアセスメントモデル「フィジコ」を使用したバイタルサイン測定コーナーを設けました。参加者は、人間とほぼ同じ測定ができることに驚きながら、これからの薬剤師が求められるスキルを体験できました。他にも薬用植物園ツアーや在学生とトークなど、どのコーナーも盛況でした。

次年度のオープンキャンパスも、本学および薬学への理解を深めていただける内容でお待ちしております。

体験実習(軟膏剤づくり)のようす

体験実習(バイタルサイン測定)のようす

在学生とトークのようす

薬剤師体験セミナー函館を開催

平成24年9月30日(日)10:00よりロワジールホテル函館において、近郊の高校生と保護者の参加による薬剤師体験セミナー函館を開催しました。このセミナーは、大学でのオープンキャンパスに参加できなかった高校生、保護者の方などを対象に行っており、前回の釧路に続き2度目の開催です。

入試部長による開会の挨拶の後、本学教員が薬剤師の仕事について紹介しました。続いて、函館市で病院薬剤師・薬局薬剤師として勤務している本学の卒業生にスタッフとして参加していただき、軟膏剤、アロマスプレー、化粧水や薬用入浴剤を作る体験実習を行いました。昼食後に開催した個別相談では、教員をはじめ在学生・卒業生がそれぞれの立場で、参加者からの学生生活等への質問に答えました。

体験実習(化粧水づくり)のようす

親子のための薬剤師体験セミナー・附属薬局見学会を開催

平成24年9月29日(土)10:30から本学サテライトキャンパスで、薬剤師という仕事を知り、さらに興味を持ってもらうことを目的に、札幌近郊の中学生・高校生とその保護者を対象にした「親子のための薬剤師体験セミナー・北海道薬科大学附属薬局見学会」を開催しました。

渡辺学長の挨拶の後、本学の卒業生でありNTT東日本札幌病院で薬剤師として働く白川貴章氏より、薬剤師の仕事について紹介して頂きました。

続いて「これからの薬剤師の仕事」というテーマで、坂東准教授が「在宅医療における薬剤師の活躍」について講演し、さらに、岡山大学薬学部　名倉弘哲教授からは「救急医療における薬剤師の活躍」と題した講演を頂きました。

昼食後には、附属薬局見学会を行いました。中高生たちは普段は見ることができない薬局の内側に入って調剤に必要な機器の説明を受け、実際の薬剤師が行う調剤のようすを見ることができました。

見学の待ち時間には、様々な生薬から自分好みの薬用入浴剤を作りました。

参加した生徒たちからは、「薬剤師についてもっと知りたくなった」、「薬剤師は人の命を預かる責任のある仕事だということがわかった」、「薬剤師はカッコイイ!」などの声をいただきました。

講演する坂東准教授

附属薬局見学のようす

日本薬局学会学術総会で ポスター優秀賞を受賞

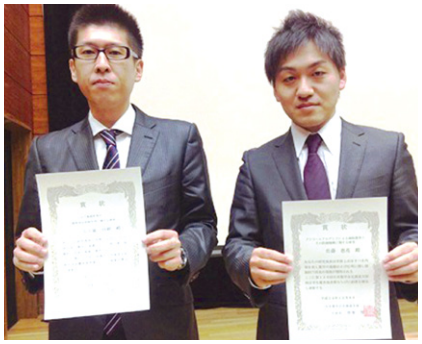
平成24年10月27日(土)、28日(日)に開催された第6回日本薬局学会学術総会において、丁野純男教授による発表「ランソプラゾールOD錠の先発品と後発品の使用性に関する製剤学的な検討」がポスター優秀賞を受賞しました。受賞者は発表者の丁野教授ですが、本発表は、筆頭演者である本学6年生の松井萌さんが、丁野教授の指導のもと行った卒業研究をまとめたものです。

松井さん(左)と指導教員の丁野教授(右)

日本薬学会北海道支部例会で 学生優秀発表賞を受賞

平成24年12月8日(土)に開催された日本薬学会北海道支部第139回例会において、本学の2名の大学院生が学生優秀発表賞を受賞しました。受賞者の氏名と演題は次のとおりです。

五十嵐将樹「ジャワ島産紅茶の糖質吸収抑制作用に関する研究」
佐藤恵亮「グリコールアルデヒドによる細胞障害とその防御に関する研究」


学生優秀発表賞を受賞した五十嵐君(左)と佐藤君(右)

天使大学との連携公開講座で本学教員が講演

天使大学・北海道薬科大学連携公開講座「いのちみつめて－毎日を楽しく健康に生きる知恵－」を、平成24年8月23日から9月20日までの毎週木曜日に天使大学で開催し、9月20日の第5回講演では薬理学分野の小松健一准教授が「未病を治す漢方医学」と題して講演しました。

講演は、漢方と関係性がある東洋医学や、西洋医学の特徴と違いについての解説から始まり、古代中国医学を基礎にオランダ医学の影響を受けながら独自に発展した日本の漢方医学について説明しました。またその中で、冷房病などの改善に有効な漢方処方や食品(薬膳)などを紹介しました。

講演する小松准教授

北海道尚志学園高校第1回学校見学会に参加

平成24年9月22日(土)に、本学の系列校である北海道尚志学園高等学校で開催された中学生と保護者を対象にした第1回学校見学会に、北薬大ブースとして参加しました。今年度から北海道尚志学園高校に北薬大コースが開設されたのを機会に、本学の特色等を中学生に知ってもらうことが目的です。

ブースでは、本学の概要説明や入試相談、院生や学部生の協力のもと薬用入浴剤づくりなどの体験実習を行い、多くの中学生やご父母に参加していただきました。

体験実習(ルームフレグランスづくり)のようす

「第39回北海道つぼみの会サマーキャンプ」に参加して

4年 南 弓佳

私は平成24年8月11日（土）から14日（火）まで深川市音江町の北海道立青年の家ゆーすくる音江で開催された「第39回北海道つぼみの会サマーキャンプ」に5年生の先輩と2人で参加しました。私たち以外の参加者は、1型糖尿病の患児、ヤング（高校生以上の1型糖尿病患者）、保護者、医師、研修医、看護師、栄養士、MR（医薬情報担当者）、運動指導士、臨床検査技師、歯科衛生士、臨床心理士、学生（医学生、看護学生、薬学生）でした。

北海道つぼみの会は、1974年に開設された会です。この会は1型糖尿病をもつ子どもを支える保護者の会であり、子どもたちが学校生活および社会生活において支障がないように関係機関等に理解と協力を働きかけ、健やかに成長していくことを支援することを目的としています。

サマーキャンプの目的は、1型糖尿病の患児にインスリン注射、自己血糖測定、自己コントロール、糖尿病の基礎知識、自己管理を身につけさせること、日々の低血糖や慢性合併症等の不安を解消させるための学習などを通して学校生活および社会生活において何ら支障がないようにすること、そして1型糖尿病患者および家族が1型糖尿病に理解と関心を深め、仲間を作り自立することなどです。

今回のサマーキャンプのテーマは「楽しけりゃいいじゃん！ in 2012」でした。このテーマはヤングの人達が考えたもので、「苦しいこともあるけれど、同じ病気の仲間と出会い、みんなで楽しもう」という思いが込められていました。

キャンプでは、肝試し、ハイキング、球技大会、キャンドルサービスなどのイベントを行いました。また参加者全員対象の勉強会では、バイキングで出される食事を動物に例え、食事の内容により血糖値の上がる速度が違うということを分かりやすく説明していました。バランスよく食事を摂るためにはどういう食事を選んだらいいのかを動物で例えることで、勉強会後のバイキングでは患児達が自分自身で楽しく食事を選択できていました。

患児は1型糖尿病のため、生活習慣で気を付けないといけないことがあったり、インスリン注射を打たないといけなかったりということはありますが、それ以外は普通の子供たちと何の変わりもありませんでした。皆とても元気で、私たちの体力の方が追いつかないぐらいでした。患児たちは、食前、運動前、おやつなどの間食時、寝る前に血糖値を測り、その値により単位を変えてインスリンを打っていました。参加者の中でいちばん小さかった小学生の子も、1日に何度も自分で血糖値を測り、自己注射をしていることに衝撃を受けました。今回のキャンプでは、エラーグリッドというものを使い、インスリンを打つ前に血糖値がどれくらいなのか患児が自分で予測してから血糖値を測定していました。そして、予想と実際に測定した血糖値の誤差を見ることで、普段自分が血糖値についてどのように自覚しているのかを確認していました。

注射するインスリンの単位は、医師が看護師、栄養士に相談して、患児の1日の運動量や食事量を考慮しながら協力して決めていました。私は今回、医師の許可をもらい、担当患児にインスリンの打ち方の指導やアドバイスを少しさせてもらうことができました。そのときに聞いた患児の話がとても印象に残りました。その患児の友達は、その子を心配して簡単な力仕事や手伝いでも全部引き受けてくれるそうです。その行為に患児は、「自分でできるのに」と複雑な気持ちになっているそうです。患児の子に、「無理しないのであれば、自分でできることを主張することも大切である」と伝えましたが、友達の気持ちも患児の気持ちも両方わかるので、「難しい悩みだ」と考えさせられました。

今回、薬剤師はMRの中に何人かいただけで、病院や薬局勤務の薬剤師の方の参加はありませんでした。しかし、これからは、薬剤師も医師、看護師、栄養士等と協力して患児たちの薬物治療の決定に関わるために、薬剤師の視点から意見を言えるようにならなくてはいけないと思いました。

今回のサマーキャンプは患児たちだけでなく、私たちにとっても凄く勉強になり、貴重な体験となりました。この経験をこれからの学生生活やその先に生かしていこうと思います。

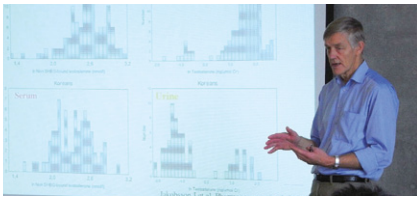
キャンドルサービスのようす

丹保教授が「道民カレッジ」講師としてテレビ出演

本学の丹保好子教授が「道民カレッジ ほっかいどう学」の講師としてテレビ出演しました。薬物乱用の身体への影響、北海道における薬物乱用の現状、本学や道内各地で取り組んでいる薬物乱用防止活動についての講義を行いました。平成25年9月30日（月）まで、右記のリンクから放送された講座を視聴することができます。是非ご覧ください。

道民カレッジ「ほっかいどう学」
大学放送講座
http://www.hbc.co.jp/tv/d-college/08.html

Rane教授の特別講義を開催


講義するRane教授

平成24年11月12日（月）、C309室において、スウェーデン王立カロリンスカ研究所のAnders Rane名誉教授をお招きして、大学院生対象の特別講義「Clinical Pharmacokinetics of Steroids（ステロイドの臨床薬物動態学）」を開催しました。Rane名誉教授は、カロリンスカ研究所のドーピング検査機関の元責任者であり、今回の講義では、ステロイド代謝の人種差や遺伝的多型、および、これを応用したドーピング検査の新基準などについて講義をしていただきました。

石川先生の特別講演会を開催

講演する石川先生

平成24年10月22日（月）、418教室において、福島県立医科大学　医療人育成・支援センター 医学教育部門 石川和信准教授をお招きし、「医療人教育への新しい教育資源の導入とその可能性」と題した特別講演会を開催しました。

講演では、まず福島での東日本大震災・原発事故の経験から始まり、震災後の医師・看護師数の減少や震災関連死など、未だ残っている震災問題を示していただきました。続いて、医学教育の流れと再改訂医学教育モデルコアカリキュラムの骨子、および、これからの医療人教育の方向性と課題について、現代の医学教育の実状を踏まえて講演いただきました。

名倉先生の特別講演会を開催

講演する名倉先生

平成24年9月28日（金）、418教室において、岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 救急薬学分野　名倉弘哲教授をお招きし、「救急薬学の展望」と題した特別講演会を開催しました。

講演では、岡山大学薬学部に平成24年3月より開設された、救急現場における実践教育と、救急医療から学ぶ薬学的発想によるトランスレーショナルリサーチへの貢献を目的とした全国初の薬学系講座である、救急薬学分野の取り組みと将来展望について紹介いただきました。

卒業25周年記念祝賀会（10期生）報告

10期卒　赤坂（旧姓:奥村）しづか

去る平成24年9月16日（日）、札幌プリンスホテル国際館パミールにおいて私達10期生の同窓会がひらかれました。

私は今回、千葉県から初参加させていただきました。卒業して25年、「さぞかし皆外見は変わっているだろう」と思いながら参加しましたが、皆に会っての第一声は、「変わってなーい。懐かしい～」でした。普段は立派なおじさん、おばさんの私達ですが、この日ばかりは一気に学生時代に逆戻り。「～ちゃん」「～君」と呼び合い、昔の話、そして現在の話と、時間を忘れるくらい語り合い、とても楽しい時間を過ごすことができました。

同窓生の中には、2011年の東日本大震災の被害にあった東北から来た方々もおり、生きて会うことができる喜びも感じることができました。一期一会ではありませんが、学生時代、薬剤師になるためという同じ目標に向かって頑張って学んできた私達の絆の強さを感じずにはいられませんでした。

次回は5年後に30周年記念祝賀会を開催する予定だそうです。今回の出席者は男子16名、女子24名。今回参加できなかった方々にも、私のこのヘタな文章を読んで、「よし、次は行くぞ!!」と思っていただければ幸いです。

10期の皆さん、5年後にまた会いましょう!

祝賀会での記念撮影

平成24年度薬学共用試験が終了

平成24年度薬学共用試験が終了し、4年生218名中210名がCBT、OSCEの両方に合格しました。

◎平成24年度薬学共用試験結果

	実施日程	受験者数	合格者数	合格基準
CBT	本試験：平成24年12月13、14日 再試験：平成25年2月20日	218	210	正答率60%以上
OSCE	本試験：平成25年1月19、20日 再試験：平成25年2月23日	218	217	細目評価70%以上 概略評価5以上
共用試験		**218**	**210**	

Pharm*Hで薬剤師について考えてみませんか

Pharm*H代表　5年　尾山　由莉

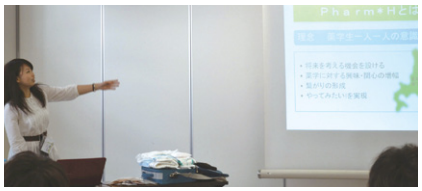
薬学生の中で、将来のビジョンをきちんと持っている人はどのくらいいるのでしょう。例えば私は「資格を取れる」という理由で北海道薬科大学に入りましたが、薬剤師は「薬局にいる人」というイメージくらいしかなく、具体的にどのようなことをしているのか全く知りませんでした。そして自分の将来を考え始めたときに、それを考える機会は誰も与えてくれない、自分で考えなければならないということに気付きました。

そこで、薬学や薬剤師に関することをみんなで考える機会を設けたいと私は思い、平成24年2月に薬学生の学生団体“Pharm*H”を立ち上げました。Pharm*Hは、全国規模の薬学生団体である日本薬学生連盟の加盟団体でもあります。現在のメンバーは、北海道薬科大学6人、北海道医療大学薬学部7人の計13名です。Pharm*Hの活動理念は「薬学生一人一人の意識改革」であり、薬学生の主体性向上を目的として、大学では学べないことを知る機会や自分の得た知識をアウトプットする機会の提供、他の薬学部の学生や現役薬剤師との交流などの活動を行っています。

Pharm*Hはこれまでに4回のイベントを開催してきました。その中の一つ、「Pharm*H×北海道薬剤師会イベント第1弾～新人薬剤師と本音で語ろう～」を紹介します。このイベントでは、薬学生から実務実習に対する疑問や本音、6年制1期生の薬剤師から薬剤師業務の理想と現実を聞いた後、「どんな薬剤師になりたいのか」、「どのような薬剤師になってもらいたいのか」について合同ディスカッションを行いました。初めての試みだったため、ぎこちない部分はありましたが、イベントは大成功でした。さらに、今後も年に1度、北海道薬剤師会と合同イベントを開催していくことになりました。

私たちは少しでも多くの薬学生にPharm*Hの存在を知ってもらいたいと考えています。自分の環境を決めるのは自分であり、周りが決めるものではありません。自分を変えることができるのは自分だけだと私は思います。Pharm*Hをぜひ自分の将来のために活用してください。

Pharm*Hを詳しく知りたい方、メンバーに会ってみたい方など、興味を持っていただけたらpharm.h2012@gmail.comにご連絡ください。また、アメーバブログにPharm*Hのブログもあり、イベントの告知をしていきますので、是非ご覧ください。



発表する尾山代表

イベント参加者との記念撮影

次回イベントのご案内

●へき地・地域医療フィールドトリップ報告会

日時　平成25年3月23日（土）13:00～18:00（終了後に交流会あり）
場所　札幌市中央区民センター つどいA・B（札幌市中央区南2条西10丁目）
内容　へき地・地域医療フィールドトリップに参加した学生の実習報告会です。
長期実務実習を終えた学生からのプレゼンテーションもあります。
対象　薬学生、興味のある方

●Pharm*H×日本薬学生連盟コラボレーションイベント第2弾“Drug on Quest”

日時　平成25年3月24日（日）12:00～16:40（終了後に懇親会あり）
場所　札幌市中央区民センター つどいA・B（札幌市中央区南2条西10丁目）
内容　高市和之先生（二十四軒薬局）を講師としてお招きし、
先生がこれまで遭遇した様々な事例について、みんなで解決法をシミュレーションしていきます。
対象　薬学生、薬剤師

内容の詳細および参加フォームは右記URLからご確認ください。
http://goo.gl/pFqw8
QRコードからもページにアクセスできます▶

新任教員からのご挨拶

赴任のご挨拶

薬剤学分野　講師　佐藤　隆司

本年度4月1日付で薬剤学分野の講師として着任いたしました佐藤隆司と申します。私は、昭和60年3月に本学を卒業した8期生です。大学院修士課程修了後、2社の製薬会社に昨年3月まで25年間勤務いたしました。その間、平成9年4月から5年間、本学研究生として吉沢逸雄名誉教授の指導を受け、博士（薬学）の学位を取得いたしました。製薬会社では、GMP、GQP、GVP活動を通して研究開発、品質管理、品質保証、学術等の業務に取り組んでまいりました。また、漢方メーカーでは生薬のトレーサビリティー確保を目的としたGACP（薬用植物の生産管理基準）にも携わってまいりました。また、業界団体の一員として厚生労働省や医薬品医療機器総合機構等と折衝する機会を得、日本薬局方の改定作業に微力ながら寄与することができました。

4月より定年退職された佐藤重一名誉教授の後任として、3年生前期の物理薬剤学を担当しております。講義の事前準備や組立てで、この一年はあっという間に過ぎ去りました。薬学教育は、平成18年度から6年制教育に移行し医療薬学、臨床薬学を取り入れた広範なカリキュラムが組まれ、課題探求能力や問題解決能力の涵養といったより深いレベルとなっております。四半世紀を経て、私たちが学生の頃の薬学教育とは隔世の感があります。しかしながら、時の流れで失った大切なものもあったかのように一卒業生として感じております。その大切なものを今一度取り戻し、教育に研究に励んでまいりたいと思っております。

現在の研究領域は、サプリメントをはじめとする食－薬間相互作用の薬物動態学的な解析です。近年、健康食品を含めた食品や嗜好品、サプリメントと医薬品の薬物相互作用が注目されています。代替医療の普及と高齢者人口の増加に伴い、健康増進や疾患の予防・治療を目的として健康食品への関心が高まっており、医薬品の適正使用の観点から、健康食品との相互作用の可能性について取り組んでまいります。

浅学の身ですが、新しい環境のもと教育及び研究に精励いたす所存でございますので、今後ともご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

新任のご挨拶

医薬化学分野　講師　金田　京介

本年度4月1日付で北海道薬科大学薬学部医薬化学分野に講師として赴任いたしました金田京介と申します。私は平成15年に星薬科大学薬学部を卒業し、一旦は製薬会社に就職したのですが、更なる専門知識習得の必要性を感じ大学院へ進学する決意をしました。星薬科大学大学院では恩師である本多利雄教授の御指導の下、修士課程、博士課程を経て平成22年に学位を取得しました。その後、米国テキサス大学オースティン校のStephen F. Martin教授のグループへ研究留学をし、博士研究員として1年半研鑽を積みました。帰国後、新天地の本学で研究を継続する機会に恵まれ、また薬学教育という新たな責務を担い、周囲の諸先生方や同僚、学生に協力を仰ぎながら日々過ごしております。

私の研究テーマは「試薬の特性を活かした生物活性アルカロイドの全合成研究」です。アルカロイドの中には強力な生物活性を有する化合物（例えばモルヒネやコカインなど）が多く存在するため、その化学合成法の確立は医薬化学の面から重要な研究課題です。若い学生と共にこの課題に取り組み、実験を通して薬学の面白さを共有できたら嬉しく思います。

現在、私は有機化学Ⅲ、演習Ⅳ、実習Ⅱ、実務実習事前学習Iを担当しています。有機化学は医薬品を化学的に理解する上で必要不可欠な学問です。目に見えない分子を扱う学問であることから苦手意識を持つ学生が多いようですが、薬剤師を志す学生の「医薬品を化学的に観る力の習得」を目標に、その助けとなるような講義、教育活動に尽力していきたいと思います。大学教員として未熟ではありますが、本学の教育、研究に真摯に取り組む所存でございますので、これからも皆様の御指導、御鞭撻をよろしくお願い致します。

平成24年度本学奨学生（1年生）が決定

本学入学後の前期に優秀な成績を収め、人物優秀者と認められた1年生10名が、平成24年度の本学奨学生に決定しました。それにともない、平成24年11月6日（火）、本学418講義室において証書授与式を行い、奨学生に奨学金6万円を給付しました。奨学生は次の10名です。

学部奨学生 1年

五十嵐彩香、櫻井　眞、佐藤綾香
里見洋輔、髙橋まどか、奈良悠汰
松尾望咲、村津圭俊、森下怜美
山崎博章

学長、学生部長と奨学生

父母後援会奨学生証書授与式を実施

父母後援会奨学金規程に基づく平成24年度奨学生20名が決定し、平成24年12月5日（水）に本学418教室において奨学生証書授与式を行いました。父母後援会奨学金制度は、学業・人物ともに優れ、経済的理由により修学困難な学生に奨学金10万円を給付するもので、平成21年度に設立されました。授与式では、伊藤良二 父母後援会会長から奨学生証書が授与された後、お祝いと激励の言葉をいただきました。

名誉教授授与

昨年3月をもって退職された大和田榮治前学長、市原和夫前副学長、佐藤重一教授（薬剤学分野）に、その長年の功績に対して本学の名誉教授の称号を授与いたしました。

「大和田賞」創設

大和田榮治前学長からのご寄付により、平成24～29年度の6年間に渡り、卒業生のうち6年次の総合演習の成績上位者2名に対し、「大和田賞」として各10万円の奨学報奨金を授与することとなりました。

退職教員

野村教授が定年退職

本年3月31日をもって、野村憲和教授（薬物治療学分野）が定年退職します。医師である野村教授は、平成11年4月に病態生理・生化学研究室の教授として赴任し、病態生理学研究室、病態科学分野を経て、現在に至っています。教育においては、主に「医学概論」、「病態生理学」など医学関連の講義や、TDM（治療薬物モニタリング）関連実習を担当しました。また研究においては「心不全患者に対するβ遮断薬治療の研究」、「高血圧と尿中蛋白排泄の検討」など、専門の循環器領域を中心に、薬学と医学を融合した臨床研究で業績を残しました。

早瀬教授が定年退職

本年3月31日をもって、早瀬幸俊教授（薬事管理学分野）が定年退職します。早瀬教授は、昭和52年4月に放射薬品学研究室の助手として赴任し、その後講師、助教授、教授を経て、平成14年4月より、新設された薬事管理学研究室教授となっています。教育においては、「薬事関連法制論」、「ヒューマニズム論」などを担当し、校務役職としてRIセンター長、就職部長、薬局実習委員会委員長などを歴任しました。近年の研究テーマは「薬局業務の評価やIT化に関する研究」であり、北海道薬局POS研究会や北海道薬科大学SP（模擬患者）研究会を立ち上げるなど、学生のみならず薬剤師の資質向上に尽力しました。

かつら [KATSURA]
北薬大情報
北海道薬科大学広報部
桂
PUBLIC RELATIONS MAGAZINE
2013.3.14 Vol.116

小樽地区救急法赤十字奉仕団より感謝状を授与されました

平成24年10月21日(日)、小樽ニュー三幸で「小樽地区救急法赤十字奉仕団 創立50周年記念式典・祝賀会」が開催されました。本学の授業のアーリーエクスポージャーで心肺蘇生法を、実習Vで傷病者の応急手当の実技を学生に指導した11名の担当教員(加納誠一朗教授、丹保好子教授、和田浩二教授、大野裕昭准教授、川嶋恵子准教授、小松健一准教授、水上徳美准教授、村岡早苗准教授、高栗郷講師、立浪良介講師、田中三栄子講師)が創立50周年記念特別表彰者に決定し、地区長である中松義治 小樽市長より、赤十字事業の進展への貢献に対して業務功労地区長感謝状が授与されました。

左から、記念式典で表彰を受けた村岡早苗准教授・加納誠一朗教授・田中三栄子講師

雪かきボランティアを実施

平成25年2月8日(金)、本学桂青会地域連携局が恒例の桂岡・銭函地区の「雪かきボランティア」を実施しました。

学生22名と教職員が参加し、事前に希望のあった個人宅、および本学のスクールバス発着所として日ごろよりお世話になっているJR銭函駅とその周辺の雪かきを行いました。参加した学生たちは、寒い中、充実した汗を流していました。

雪かきボランティアに参加した学生および教職員

銭函・桂岡 Wonder Land! 北薬大周辺オススメスポット

北薬大の本拠地、桂岡をはじめ、玄関口である銭函周辺で探したおもしろスポットや、まちの歴史などをご紹介します!

北海道最古の鉄道施設「JR銭函駅」

石狩湾の海岸線から、まさに目と鼻の先にあるJR銭函駅。普段はひっそりとして、通学時に乗り降りしていても、駅舎に目を止めることはあまりないかもしれませんが、実はこの駅舎、北海道に初めて鉄道が敷設(手宮~札幌間、35.9km)されると同時につくられた、最も古い駅の一つなのです。開業は明治13年11月。幌内炭鉱(現・三笠市)の石炭を小樽へ運んだ官営幌内鉄道が前身です。現在の駅舎は3代目にあたり、昭和6年の建築。腰折屋根(マンサード)が特徴のデザインは、アメリカの駅舎がルーツともいわれています。80年もの間、銭函の変遷を見つめてきた駅舎。じっくりと眺めてみると思わぬ発見があるかもしれません。

道内初の「駅弁」『酒まんぢう』 +1 プラスワン!

銭函駅が開業した頃、「甘酒まんぢう」という饅頭が販売されていました。近所の和菓子店が製造したといわれ、旅行者の人気の的でした。戦時下の統制で製造は中止になっていましたが、これを懐かしむ声を受けて15年ほど前に復活。北海道の立ち売り弁当のルーツとされる「酒まんぢう」。ちょっと味わってみませんか。